Niigata Forestry Magazine

にいがた山しごと情報誌

TAKE FREE!!

森林・林業に興味のある方必見！
新潟県内の林業事業体10社の紹介と、
林業の基本情報が満載です!!

【掲載事業体】

村上市森林組合
両津東部森林組合
有限会社 中惣林業
中蒲みどり森林組合
大谷林業
魚沼市森林組合
株式会社 村山土建
くびき野森林組合
ぬながわ森林組合
南魚沼森林組合

はじめに

新潟県は、県土の総面積のうちの68％が広大な森林で覆われており全国第6位の森林面積を有しています。スギを中心とした針葉樹と、ブナ・ナラ類を主体とした広葉樹など多様な樹種で構成され、県土の保全や水資源のかん養、二酸化炭素の固定や心の癒し等に大きな役割を果たしています。

森林は、太古から人とともに近い関係にあり、戦後の焦土と化した日本の復興を支えるなど、社会の大混乱や大災害からの復興に大きな役割を果たしてきました。近年の大震災やそれに伴う原発事故、豪雨、豪雪など苦難の時こそ、一層森林や木の大切さを痛感します。

この森林を、つくり、守り、育て、活かすためには、森林の手入れを行う『緑の担い手』がとても重要です。現在は、機械化の進展などもあり若年層の割合が増加しており、平成22年度は727人（認定事業体森林技術員総数）が県内各地で活躍しています。

森林の公益的機能の発揮や再生可能な資材としての木材、エネルギー源としての木材など、森林・林業は循環型の地域社会の形成に役立つことなどから期待は高まってきており、間伐等の森林整備や木材の活用などは、今後益々重要になってきます。

今、その仕事が『緑の担い手』達により県内各地の森林の中で行われています。額に汗し働く彼ら彼女らがどのような想いで働いているかを本音で語ってもらいました。

林業に興味をお持ちの方はもちろん、林業が全くわからない方々も、是非とも頁を開いてみて下さい。

森林とつながり寄り添いながら働く『緑の担い手』の言葉を通して、森林を感じてください。そして、もしも機会があったら、長い時と手間をかけて行っている「森林づくり」という壮大な創作活動に共に取り組みましょう。

新潟県　農林水産部林政課長　**二野宮 雅宏**

目次

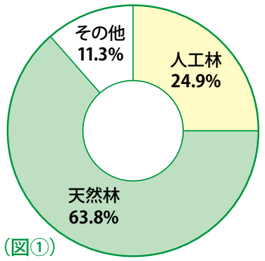
データで見る 新潟県の森林・林業 …… p. 2
林業への就業支援策を紹介 …… p. 3
林業のキホン作業 …… p. 4
【林業事業体ファイル】
●村上市森林組合 …… p. 6
●両津東部森林組合 …… p. 10
●有限会社 中惣林業 …… p. 16
●中蒲みどり森林組合 …… p. 20
●大谷林業 …… p. 24
〈取材記〉村上市森林組合・両津東部森林組合・中惣林業・中蒲みどり森林組合・大谷林業 …… p. 30
〈山仕事コラム〉林業の七つ道具 …… p. 33
【林業事業体ファイル】
●魚沼市森林組合 …… p. 34
●株式会社 村山土建 …… p. 38
●くびき野森林組合 …… p. 42
●ぬながわ森林組合 …… p. 48
●南魚沼森林組合 …… p. 54
〈取材記〉魚沼市森林組合・村山土建・くびき野森林組合・ぬながわ森林組合・南魚沼森林組合 …… p. 60
〈山仕事コラム〉資格や講習にはどんなものがあるの？ …… p. 62

データで見る新潟県の森林・林業

民有林の森林資源の状況（表①、図①）

新潟県の森林面積は約86万haで県土の68％を占めており、国有林を除く民有林は57万haと森林の66％を占めています。このうち林業者や林業事業体が育成してきた人工林について主に見てみましょう。

民有林人工林率は約24・9％で全国46位であり、全国平均（約46％）と比べて低くなっています。人工林はスギが主体で次いでアカマツ、クロマツ、カラマツの順となっています。天然林はほぼ広葉樹で森林面積の63％を占めています。



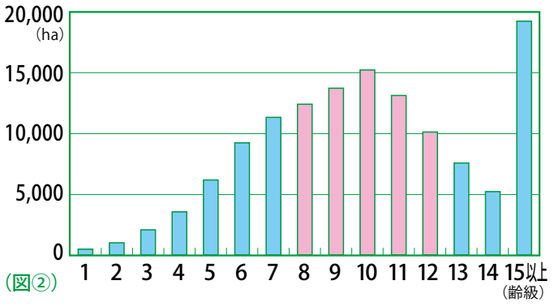
（図①）

区分	樹種		面積	比率	蓄積	比率
人工林	針葉樹	スギ	129,468	22.9	52,445	52.7
		アカマツ	5,605	1.0	1,290	1.3
		クロマツ	1,863	0.3	412	0.4
		カラマツ	1,244	0.2	428	0.4
		その他針	866	0.2	186	0.2
		小計	139,046	24.6	54,761	55.0
	広葉樹	キリ	586	0.1	88	0.1
		その他広	1,076	0.2	70	0.1
		小計	1,662	0.3	158	0.2
	合計		140,708	24.9	54,919	55.1
天然林	針葉樹		6,178	1.1	1,699	1.7
	広葉樹		354,638	62.7	42,976	43.2
	合計		360,816	63.8	44,675	44.9
無立木地等			63,996	11.3		
総計			565,520	100.0	99,594	100.0

（表①）

スギ人工林の齢級配置（図②）

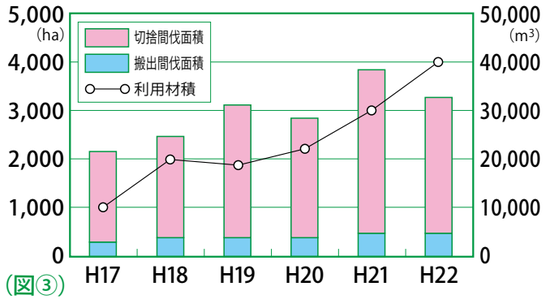
スギの造林は昭和30～40年代に盛んに行われ、昭和40年度には最高の年間4719haの植栽が行われました。この時代に造林されたスギは現在、8～12齢級（36年生～60年生）になり、県内で最も資源量の多い齢級となっています。



（図②）

間伐面積及び利用材積（図③）

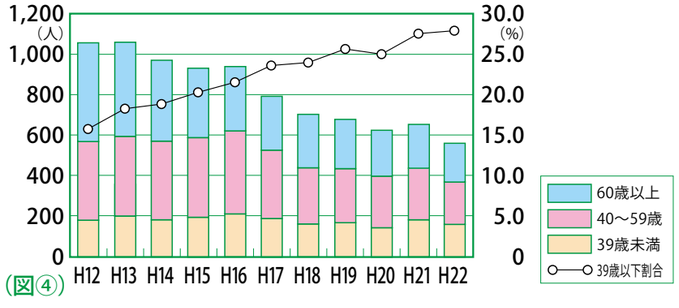
間伐は、良質な木材の生産に必要不可欠であり、また、森林を健全な状態に維持していくためにも、最も重要な森林施業です。左図は切捨間伐・搬出間伐面積及び利用材積を示しています。国・県・市町村・森林組合などが重点的に推進していることから面積・利用材積ともに増加しています。



（図③）

森林組合森林技術員の推移（図④）

近年では森林技術員は年々減少しており、平成22年度には平成12年度の約半数にまで減少しました。一方で、若い世代の割合は年々増加しています。



（図④）

林業への就業支援策を紹介

新しく林業への就業を目指す方に対して、さまざまな就業支援策が講じられています。ここでは概要を紹介します。詳しくは各ウェブサイトへアクセスしてみてください。

林業に就業したいけど、経験もないし、不安…という方でも大丈夫！

就業前の支援策は…

林業就業支援講習

（主催・新潟県林業労働力確保支援センター）

新たに、林業への就業を希望する人を対象に20日間程度の座学・実習を行うもので、林業就業に必要な知識や技術を得られる講習会です。

具体的には、林業の基本的知識の講習、林業・木材産業等の施設見学、林業労働安全衛生講習、林業作業の実地講習、刈払機・チェーンソーの作業講習、林内作業車講習、小型車両系建設機械（3t未満）運転業務講習、就業・生活相談等の内容となっています。

新潟県では、平成17年度から実施し、平成23年度までに155名が修了。うち69名が林業へ就業しています。講習は例年、春と秋の2回行われています。

NW森林いきいきHP
PCサイト　http://www.nw-mori.or.jp/
携帯サイト http://www.nw-mori.or.jp/mbl/
（上のQRコードを読み取ってください）

新潟潟県林業労働力確保支援センターHP
http://www.niigata-rinrou.com/

就業後の支援策は…

緑の雇用現場技能者育成対策事業

緑の雇用現場技能者育成対策事業とは、森林組合などの※認定事業体に採用された林業未経験者の方に、林業で必要な技能を学んでもらうため、同事業体を通じて講習や研修を行うことでキャリアアップを支援する制度です。一人前になるには数年かかるといわれている林業。林業のスペシャリストになるためには様々な技能を習得する必要があります。

「緑の雇用」事業では就業年数に応じて、さまざまな技能を身につけられるよう、研修の内容をステップアップさせ、体系的に学べる研修プログラムが用意されています。（緑の雇用ウェブサイトより一部改変）

※林業労働力の確保の促進に関する法律第5条で定める林業労働力確保改善計画を都道府県知事に認定された林業事業体

緑の雇用ウェブサイト
PCサイト　http://www.ringyou.net/
携帯サイト http://www.ringyou.net/mobile/
（上のQRコードを読み取ってください）

基本は昔も今も同じ、昭和40年代の写真で見る 林業のキホン作業

林業の仕事を知る上で、基本的な流れとその内容を、なつかしい写真入りで解説します。昭和40年代は、現在と違い伐採や植栽がさかんに行われていた時代でした。現在は、当時植栽されたものの間伐作業等が重点的に行われています。

現在では、これらの諸作業は一部機械化され、より効率的に進められるようになりましたが、基本は変わりません。多くの先人の知恵と汗の結晶である林業のキホン作業をこの機会に見直してみましょう。

苗木運搬

苗木や肥料を担いで運搬。道路も何もない場所にスギが植えてあったら、かつてこのように人力ですべて運んだ証し。

植栽

苗木を植える作業。植栽時には縄などを張り間隔をきれいに揃える。苗木には土が付いておらず乾燥に弱いことから、植栽地に仮植（かしょく）し、植える分だけ掘り出して使う。

根踏み（ねぶみ）

苗木を持ち、左右に揺すりながら足で踏むことで、苗木が抜けたり流れたりすることを防ぐ。

下刈

苗木を植えてから10年程度、毎年行う作業。草を刈らないでおくとスギに日光が当たらなくなるため、スギが小さい時は年２回行う。

雪起し

雪の圧力で倒れた造林木を、雪消え後、すぐに縄などで引っ張り起こす作業。縄は外さなくても次第に腐ってなくなる「わら縄」がよく使われる。上の写真は、雪解け時期の若齢スギ林の状況。

枝打ち

節のない優良な材を生産するために行うが、効果としては雪害の防止や病虫害からの保護などの面もある。写真はナタによる枝打ち（下）とはしごを使った枝打ちの様子。樹皮むけを防ぐために、基本的には晩秋から冬期の生長休止期に実施する。

除伐

造林木以外（スギ以外）の樹種の除去が中心だが、スギの生育不良木（病害虫被害、雪害等）の除去も含む。下刈終了から数年を経て１～２回ほど実施される。

間伐

植栽後 20～30 年程度経過すると、造林木（スギ）同士で競争が始まり、次第に優劣が付いてくる。劣勢のものを除去し優勢のものを残すことにより、主伐時に価値の高い林を作ることを目的とする。近年は、搬出間伐が重要となってきており、間伐した材は建築材、合板材料、チップ等さまざまな用途に利活用されている。ただし、ある程度混みあった林を伐採する場合は、かかり木が頻発するため、間伐従事者には高い技術が求められる。

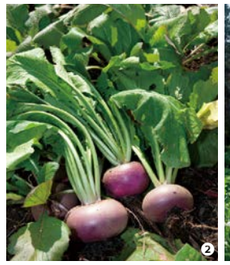
主伐

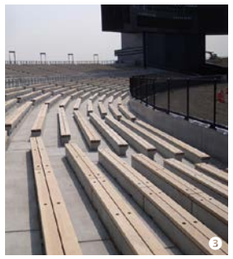
林業の最終段階で、収穫とも言う。新潟県の人工林ではここまで80年程度かかる。写真（左）は、ブナの天然林伐採風景（架線集材）とスギ人工林の伐採木の集材・運搬風景。

地拵え（じごしらえ）

植栽するための準備作業。スギ等の伐採跡地に残った枝葉等を集め、筋状に配置したり、火を入れて焼き払ったりして、植栽しやすい環境にするもの。

斜面の上側で伐採した木の荷掛け作業をする、佐藤治さん。11月とは思えないほど天候に恵まれたこの日は、青空と森の緑のコントラストがとても美しかった





❶木を伐採した跡地に火入れをし、数年間作物を収穫してから、苗木を植えて森林に戻す、林業地帯ならではの焼畑農法。森林の腐葉土と灰が肥料となり、良い作物を生みだす　❷焼畑農法で育った赤かぶ。「赤かぶ漬け」は山北地区の特産品　❸新潟市の「ハードオフエコスタジアム新潟」の椅子の座面には山北産のスギも使われている

緑の担い手を目指そう! にいがた山しごと情報誌

Niigata Forestry Magazine

林業事業体レポート File01

村上市森林組合

【村上市】

伝統的な林業を引き継ぐ県内でも有数の林業地帯

村上市森林組合の所在地・村上市旧山北町は、県内でも有数の林業地帯。今も昔も「スギと言えば山北」と言われ、昭和40年代にはスギの伐採で生計を立てる業者も多かった。当然、森林組合の活動も盛んで当時は地区ごとに組合が結成されていたという。市町村合併に伴い、平成22年に山北町森林組合から現在の村上市森林組合に改称。歴史的にも山と深く関わってきたこの地では、昔から伐ったら植える思想が伝えられ、木の搬出方法ひとつをとっても土地を痛めないように架線搬出を主流にするなど、山を大切にした昔ながらの林業を見ることができる。スギを伐採した山を焼いて焼畑として利用する焼畑農法もそのひとつ。組合員の森林を整備する受託事業が盛んだが、木材価格の低下で近年は手入れをしない山林も増えている。代々続いた豊かな森林資源を守り続けることや伝統的な林業の若い世代への継承と課題も多い。細い木材を「丸棒」として活用提案、また、地域材のブランド化にも積極的に取り組んでいる。

❹ワイヤーのたるみを防ぐために、立木を使った中間支柱。最終的にはこの木も伐採される　❺斜面下側では集材機が待機。運転手は、荷掛け担当者と無線で連絡を取りながら作業する　❻ワイヤーを止めるアンカーにも伐り株を利用。引っかけやすいようにわざと高く残しておく

緑の担い手

～大自然の中で、プロ意識を持って働く人たち～

昔から林業が盛んなこの地だが、現場では技術員の高齢化が問題になっている。ここで紹介するお二人は、ともに木材関係の運搬や製材工場などの仕事経験を経てから、さらに林業に深く関わる、現場の仕事を選んだ。二人に続く、次の若手世代にも山北の林業技術を伝えていかなければならない。

林業の魅力はたくさんある

佐藤 徹さん

年齢：52歳

林業経験：12年

Sato Toru

旧山北町出身です。山や森には親しんでいたので自然に囲まれた、森の中での作業はとても気持ちが良いですね。作業中、何度か怖い思いをしたこともあり、危険もありますが、それ以上に魅力もたくさんある仕事だと思います。大きな木を伐るのはとても面白く、樹齢百年以上の大きな木を伐ったときは、倒れる時に「ギギギ」と悲鳴のような音がしてすごかったですよ。

できる仕事はこれしかない

佐藤 治さん

年齢：50歳

林業経験：14年

Sato Osamu

私の場合、山の仕事が好きというよりも、これしかできないんです（笑）。前職の木材の運搬に比べたら、今の仕事の方が危険度は高いのですが、以前からチェーンソーを使っていたということもあり、自分にできることはこれかなあと。林業経験は10年以上になりましたが、まだまだ勉強することばかりです。思った方向に木が倒れないこともあるし、とても難しい仕事だと思っています。

【事業体Data】

村上市森林組合

住所／村上市府屋121-2　電話／0254-77-3121

設立／昭和49年　資本金／9243万円　従業員数／35人

勤務時間／8:00～17:00　主な勤務地／村上市（山北地区）

主な従事業務内容／植林、雪起し、下刈、間伐、主伐、森林調査、丸棒の加工・組立・防腐処理・乾燥

【事業主コメント】

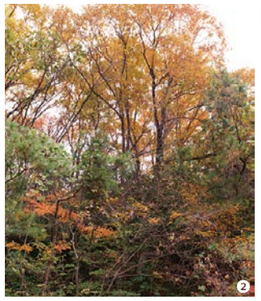
林業が盛んな土地の使命として、後継者の育成も考えています。若い人達にこの業界に興味を持ってもらえるのはうれしいのですが、単に「山が好き」という気持ちだけで入ってくる人は、辞めてしまうことも多いのが現状です。現場は傾斜地30度以上の厳しい場所もありますし、雨の日や雪の日は泥だらけ雪まみれになって作業します。そして、木を伐る作業は、とにかく危険が伴います。そういった厳しさを理解した上で、仕事をするんだという覚悟を持って来てほしいですね。

村上市森林組合 代表理事組合長 平方一生

緊張感のある厳しい現場だが森の緑に心も癒やされる

❶伐倒の際には、確実で安全な方法としてクサビが使われる。打ち込むときにはハンマーの代わりに斧の頭部分が良く使われる　❷架線集材で集められた木材は、適切な長さに玉切りするため、尺棒をあてて、印をつけていく（採材）

❸伐採するときには受け口を作る。まず、下側を伐ってから斜めに伐りこみを入れる　❹クサビを打ち、木の梢端部の動きを見ながら追い口を伐り進む



❶雑木林の中でひときわ存在感を示していた大きなシデの木　❷作業現場だったスギ林の裏は、広葉樹が色とりどりに紅葉していた

緑の担い手を目指そう! にいがた山しごと情報誌

Niigata Forestry Magazine

林業事業体レポート File02

両津東部森林組合

【佐渡市】

現場は両津の中心部から車で約30分のスギ林。刈払機で除伐作業をする森林技術員

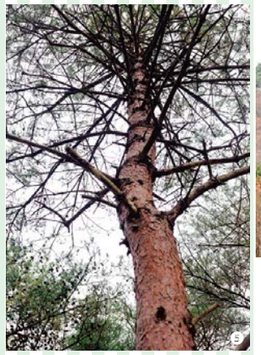
島内での地産地消を維持しつつ、新しい佐渡の林業に期待

佐渡で伐採された木は、大径木など一部を除いてほぼ100%佐渡で消費されている。つまり伐って製材して消費するという一連の流れが島内で完結しているということ。そのような流通事情もあって佐渡市内の森林組合は、すべて製材工場を持っている。しかし、50年前は島内に103軒あった製材工場も現在は25軒になり、その内、実質稼働しているのは13軒にまで減ってしまった。住宅建て替えのピークが約10年前にあったが、当時は佐渡産材が足りなく外材を使用。最近になってようやく地場産が成熟し出番を迎えたが、以前のような建築需要はなくミスマッチが生じている。山に資源が豊富にあっても活用できないのが現状のようだ。一方で、製材して出る廃材が、ここ数年来の石油高騰も影響し、燃料としての注文が増えている側面もある。さらに内地の森林組合ではあまり行われていない造林も、両津東部森林組合では継続して行っている。森林技術員の高齢化と若年層の減少問題も含め、新しい佐渡の林業の展開が求められているのだ。

❸刈払機の使用は、一定時間を超えたら休むことが基本。タオルで汗をぬぐいながらほっと一息の時間　❹勾配の急な斜面は足場も悪く、ちょっと踏み外しただけで転倒、滑落の危険性がある。斜面の歩き方には経験や体力が求められる　❺不要木がきれいに刈られた作業後の状態

アカマツ一本ごとに履歴管理 マツ林の保護がトキの繁殖を助ける

❶樹幹注入は対象となるマツの材積に応じて所定の薬材量を注入し、マツ枯れの原因となるセンチュウの増殖を抑制する。人間でいう予防注射のようなものだ。❷この日は、2日前に注入していた約30本のアカマツから薬液の空容器を抜く作業が行われていた



❸発注者に提出するため作業完了の写真を撮影中　❹外側から見た作業現場のマツ林。内陸に多いのがアカマツで、海岸沿いの防風保安林などはクロマツが主だ　❺枯れてしまったマツが再生することはない

佐渡における松くい虫防除

POINT

佐渡では松くい虫被害終息に向け、樹幹注入や伐倒駆除などが実施されている。取材現場で実施していた樹幹注入とは、プラスチックの容器に入った薬液をマツに注入し、1～2日後に空容器を抜く作業だ。注入は樹液の流動が落ち着き、薬液の浸透阻害の少ない冬期間に行うのが一般的。近年では、薬液の薬効期間の改善により、4～6年程の間隔で樹幹注入が行われている。かつて佐渡で野生のトキが生息していた頃は、マツを営巣木としていたことが知られている。これら営巣木、ねぐら木の候補となるマツ林の保全が求められている。

❼事務所でチェーンソーの修理やメンテナンスも担当する本間さん　❽森林組合所有のものから組合員のチェーンソーまで修理する。足元には順番待ちの機械がずらり

❻かつて竹は佐渡の主力産材として数多く内地に送られ、また竹製品の製造も主要な産業のひとつだった。プラスチック製品などが台頭するにつれ竹の需要は減り、竹林は繁茂する一方で荒廃が進んでいる。島内の竹林は概ね1,000haほどの分布

緑の担い手

～大自然の中で、プロ意識を持って働く人たち～

両津東部森林組合の森林技術員は6名。70代の大ベテランや特殊伐採の仕事人、そして林業経験の浅い若手も擁している。ベテラン勢は世代交代を意識して、事あるごとに現場に若手を連れていき、見せてやらせて覚えさせる。期待の若手2人に抱負を語ってもらった。

特殊伐採の名手、親松清さん（右）。若いスタッフは共に仕事をしながら、技術を吸収していく

Honma Yasuo

本間 康夫さん

年齢：35歳

林業経験：2年

一本一本木は違う。たくさん伐って経験値を獲得したい

出身は神奈川県です。両親は現在神奈川で暮らしていますが、父親の実家が佐渡で、こちらに土地と田んぼが残っていたので、それを受け継ぐような形で佐渡にIターンしました。伐採、保護、植栽と一通りは教わって出来るようになりましたし、この仕事が楽しいのでこれからも続けていきたいです。特に太い木を伐る時が一番楽しいかな。熟練の先輩のように、早く自分もきれいに木を伐れる職人になりたいですね。一本として同じ木はないので、その木を伐ったら終わり、もう学べないですよね。だからチャンスがあったら、自分に伐らせてほしいと声をあげます。経験値を獲得するには、たくさんの木を伐るしかないですから。

Kasuga Kazunori

春日 和則さん

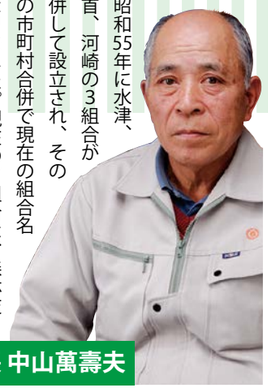
年齢：31歳

林業経験：8ヵ月

防災や環境保護の役割を果たしていると実感

もともと山が好きでこの仕事を選びました。自宅が山に近いこともあって山には慣れ親しみがあります。先輩から指導いただいて少しずつ仕事にも慣れてきました。急斜面で木や草に覆われたところでの作業なので足場が悪くて大変です。刈払機などの扱いにも十分気をつけますが、伐った木が自分のところに跳ね返ってくることにも注意しています。力を入れていないと木や枝を切った際に体ごと持っていかれる時もあります。これからももっと技術を磨いていきたいですね。木を育てていくことで土砂崩れがなくなったり、環境保護につながったりと、この仕事が大きな役割を果たしていることを実感しながら仕事をしていきたいです。

【事業主コメント】



昭和55年に水津、岩首、河崎の3組合が合併して設立され、その後の市町村合併で現在の組合名になりました。現在の当組合は、森林技術員が6名、製材工場が2名、事務所が6名という人員構成になっています。経営維持が厳しい現状ですが、この人員でなんとか頑張っています。若い森林技術員が入ってきていますが、中心になっているのは20年選手以上のベテラン達。山の仕事は危険が多いから、ベテランから若手にうまく技術を受け継いでもらいたいですね。山があって田んぼがあって海がある――水をきれいに保つために山林の保全は重要なんですね。

両津東部森林組合 代表理事組合長 中山萬壽夫

【事業体Data】

両津東部森林組合

住所／佐渡市下久知572-13　電話／0259-27-7156

設立／昭和55年（合併）　出資金／3250万円　従業員数／14人

勤務時間／8:00～17:00　主な勤務地／佐渡市

主な従事業務内容／森林整備・特殊伐採・木材製品製造業・病害虫防除

倒した木をブルドーザーのウインチで集材する林業歴3年の大久保さん。雪上での運搬は材を傷めないメリットもある

❶搬出についての打ち合わせをする森林技術員。この日は5人での作業となった ❷阿賀町綱木地区の個人所有の森林。手前は田んぼなので通常では道がなく入れないが、雪に覆われた冬期間であれば搬出道や集積場所として利用できる

緑の担い手を目指そう! にいがた山しごと情報誌

Niigata Forestry Magazine

林業事業体レポート File03

有限会社 中惣(なかそう)林業

【阿賀町】

37年間使い続ける重機が物語る雪国の特性を生かした搬出法

訪れた現場は2月下旬の阿賀町(旧三川村)綱木地区。およそ110年生のスギの「寒伐り」が行われていた。あえて冬場に伐採、搬出するのにはいくつかのメリットがあるから。材内の水分が少ない良質な材が出せること。普段は田や畑などで通行できない場所でも、積雪という条件を生かして重機が通れること。森林の中でも雪の上を滑らせて搬出するため木口や樹皮が土や泥で汚れないこと、などである。もちろん冬場の厳しい自然条件での作業になるし、伐採前には2m以上の雪を掘り起こさなければならないなど、苦労もある。しかし、これらすべてが雪国の林業の特性なのだ。「中惣林業」でも主伐・搬出は、冬場の仕事として位置づけられている。同社の他の業務としては、会社設立当初から継続している聖籠町方面の海岸保安林整備がある。松くい虫により被害を受けたマツを伐倒し、くん蒸処理する作業だ。また阿賀町内の間伐・除伐などの森林整備、平成24年度からは町内の新設ペレット工場への材料搬入なども始まり、業務量の増加が見込まれている。

❸37年前に購入し、今も現役のブルドーザー。雪の多い地域のさまざまな現場で木のけん引や運搬用に活躍してきた ❹作業中にブルドーザーの履帯が外れてしまい全員で修理にあたる。30分間の悪戦苦闘の末、復活し、また動き始めた。古い重機を労わりながら大事に使っている ❺雪上運搬により、スギの樹皮が雪に移り赤茶けた跡が残る ❻購入当時のブルドーザー。車体にはまだはっきりと「中惣林業」の文字が入っている

冬の森に乾いた音を立てて倒れこむ「寒伐り」の醍醐味

❶樹齢110年～120年の大径木を伐採するのは、林業歴30年の飛田野和男さん。受け口を入れた後にチェーンソーを当て伐倒方向を確かめている　❷伐採前に約2mの雪を掘り起こす。根元が見えてくるまでひたすら40分間掘り続けた　❸直径約80cm、樹高30m前後。どう採材するのがもっとも有効か、入念に木の状態を調べる　❹枝を払い、4mや6mに玉切りし集材される

緑の担い手

～大自然の中で、プロ意識を持って働く人たち～

従業員は1名のみ期間雇用だが他8名はすべて通年雇用。年間を通じて仕事が途切れないことの証しだ。森林技術員は20代から60代まで各年齢層に分かれたバランスのよい構成だ。それぞれが経験や若さなどの持ち味を生かし現場で発揮している。

Hidano Kazuo

基本を覚えて現場で応用を

飛田野 和男 さん

年齢：64歳

林業経験：30年

何人かで伐採をやる時は特に注意しないといけませんね。どこに誰がいるかっていうのを気にしながらやらないと。相手もプロならいいけど素人だとどこにいるかわからない時がある。林業は基本を身につけて教科書通りに仕事するのが一番。あとは現場に出てからの応用だから。

Okubo Shouji

ログハウス購入を機に林業へ

大久保 昭二 さん

年齢：44歳

林業経験：3年

40歳過ぎて林業を始めるようになりました。念願の薪ストーブ付きログハウスを中古で買って、それで仕事も林業関係を探していたら中惣林業にお世話になることになりました。山の仕事は重機の操作も伐採もなんでもやります。役所に行ったり事務の仕事もやってます。

【事業体Data】

有限会社 中惣林業

住所／東蒲原郡阿賀町綱木2029　電話／0254-99-3446

設立／平成2年　資本金／500万円　従業員数／9人

勤務時間／8:00～17:00　主な勤務地／阿賀町・聖籠町・新発田市

主な従事業務内容／各種森林整備、海岸松林伐倒処理、公園維持管理業務等

【事業主コメント】

現在、森林技術員は9名おります。季節に応じた業務をこなしていますので、年間を通して作業現場があります。さらに平成24年度からは、阿賀町のバイオマスタウン構想事業にも参加させていただくことになりました。ペレット工場へ年間を通して大量のペレット用材を搬入する仕事です。新しい業務となりますので、会社一丸となってチャレンジしていこうと思います。従業員が高齢化してきたこともあり、数年前に緑の雇用を利用して若い社員を迎え入れました。今後も若い人材を確保していきたいと思っております。

有限会社 中惣林業 代表取締役 飛田野文治

木材市では毎回、入荷する木材の量も素材も違う。地元・五泉市の製材業者の方々の質問に応える、組合職員の桐生要一さん（左）

緑の担い手を目指そう! にいがた山しごと情報誌

Niigata Forestry Magazine

林業事業体レポート File 04

中蒲（なかかん）みどり森林組合

【五泉市】

毎月開催される木材市で地元良質材の利用拡大に貢献

毎月15日前後に木材市を開催している、中蒲みどり森林組合。ちょうど取材に訪れた日は、年に一度の「国産優良材展示特別市」と重なり、紅白幕が飾られた会場には多くの会員たちで賑わっていた。こちらの森林組合が木材市を開催したのは、まだ村松町森林組合時代の平成7年。当時、新潟県森林組合連合会が主催する木材市は新潟市と上越市の2ケ所のみの開催で、五泉地区はその中間地点であったことから市場に参入。現在も木材市は森林整備や植栽などの組合の事業の中でも最も大きな割合を占めている。木材市の開催によって組合内で生産した木材を市で直接、販売できる上、搬出間伐の依頼があった場合も伐採から販売まで一括で引き受けることができるからだ。何より地元の良質材の特性を見極め、信頼している業者に引き渡す役割を担うことは林業に関わる者として大きな喜びという。組合では、この春（平成24年4月）、10代の新入職員が2名就職することをきっかけに、新しい林業のあり方を考え、これまで以上に市場を活気づける木材市の開催を目指す。

❶現場を案内してくれた桐生要一さんと森林技術員の皆さん。高性能林業機械を活用し、現場では常に3〜4人で仕事を進めている　❷伐倒方向を決めてから、受け口の位置や形をイメージしてチェーンソーで伐っていく　❸安全に、確実に、伐倒するために、追い口に安全クサビを打つ

❹新潟市や上越市の木材市は競り方式だが、こちらでは開催当初から入札方式で行われる。気に入った木材の番号に単価を記入した入札書を入れる　❺はい積みされた木材。メインはスギだが、マツやサクラもある。それぞれ、節や色、傷、腐れなど、買い方は細部まで材の良し悪しを吟味する　❻取材した月の木材市は、年に一度の「国産優良材展示特別市」も兼ねており、通常開催される木材市よりも賑やかに行われた

高性能林業機械を活用し現場に合わせた効率的な作業を実施

バケットとしてもグラップルとしても使えるスイングヤーダ機能付きバックホウ。木材をつかんだまま、360度方向転換できるグラップル機能で、それまで3人必要だった積み込み作業が一人で行えるように

❷枝払いと玉切りを専門に行うプロセッサ。材をつかむグラップル、枝払い用のカッター、材送り装置のフィードローラー、玉切り用のチェーンソーで構成される　❸プロセッサはまず、グラップルで伐倒された木の根元をつかんでカッターで枝を除去した後、あらかじめ設定した長さでチェーンソーで玉切りする

❶林業歴40年のベテラン技術員の鈴木清さん。右手に持つのは、材木屋からの注文が書いてある「木割表」。左手に持つ「尺棒」で、木の長さを測り、玉切りする

緑の担い手

～大自然の中で、プロ意識を持って働く人たち～

自分が伐採・集材した木材が市場に出るまでの流通を見届けられるのは木材市を主催する組合ならではの魅力。期間雇用も含めて、現在、森林技術員は17名。現場では作業効率のアップを図り新しく高性能林業機械ザウルスを導入するほか、二人の若手新人社員の活躍にも期待が高まる。

良い材に出会う楽しみ

Kiryuu Yoichi

桐生 要一さん

年齢：45歳

林業経験：25年

組合では、主に伐採と木材市を担当しています。毎月開催される木材市では、たくさんの木材が集まってくる中で、自分の気に入った材が必ず見つかります。それは素材が良いとか悪いとかじゃなくて、全くの自分の直感なんですが。長くこの仕事をやっているとそういう材との出会いが楽しみです。それが予想を立てたのと同じ位の価格で売れたときはとても嬉しいですね。

匠の仕事を引き継ぎたい

Oyamatsu Toshinori

親松 敏教さん

年齢：35歳

林業経験：12年

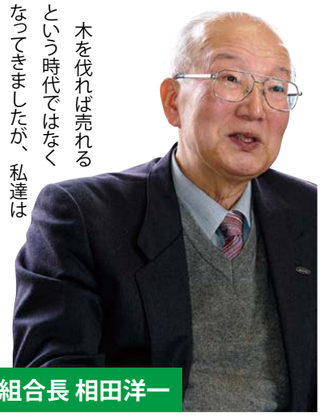
仕事は大変ですが、間伐作業が終わって、きれいになった山を見るととても気持ちが良いですね。ただ、この仕事は利益を山主に還元しなくてはならないので、段取り良く、計画的に作業することも大切です。それが達成感にもつながっています。たくさんの良い先輩に囲まれ、匠の技術を引き継いでいくためにも、若者にどんどん入ってきてもらいたいと思っています。

【事業体Data】

中蒲みどり森林組合

住所／五泉市村松工業団地2丁目1566番地2
電話／0250-58-7824　設立／平成12年（合併）
資本金／3700万円　従業員数／24人
勤務時間／8：00～17：00　主な勤務地／五泉市
主な従事業務内容／素材生産、造林、木材共販

【事業主コメント】



木を伐れば売れるという時代ではなくなってきましたが、私達は地元産の良い木材をアピールしていかなければなりません。木材市は会員制で一般の方が材を落札することはできませんが、材を見てもらいたいので一般の方にも公開しています。新年度採用した新人二人には、まずは現場での厳しい仕事を体験して、現状を知ってもらった上で、彼らが希望を持って働いていけるように、私たちも林業に一生懸命取り組んでいきたいと思います。

中蒲みどり森林組合 代表理事組合長 相田洋一

❶取材現場の木は伐採された後、枝払いせずにそのまま山で水分を減らす「葉枯らし」を行っていた。葉枯らしさせることによって心材部分の水分を少なくし、また軽くなることで搬出も楽になる　❷下で作業をする川又さん。カメラに気づいてカッコいいポーズを決めてくれた　❸「この木は、芯が真ん中にあって見た目もいいし、良い値で売れる」と笑顔で解説

緑の担い手を目指そう! にいがた山しごと情報誌

Niigata Forestry Magazine

林業事業体レポート File05

大谷林業

【三条市】

県内でも名匠の誉れ高い索道架設の技術と知識を誇る

代表の川又義輝さんほか、2名の森林技術員で構成される「大谷林業」は、決して大きくはないが、架線集材の技術力の高さで業界内でも特別な存在感を放っている会社である。架線技術を活かして、これまで土木作業現場で使う架線のリースやボーリング調査のための資材搬入・撤収業務などもたびたび依頼されている。取材に伺った日の現場はかなり厳しい急傾斜地。驚くべきスケールで繰り広げられる、急斜面の上部へ全幹集材するその光景に圧倒されてしまった。今では多くの事業体が作業効率の面から木材伐採・集材作業に各種高性能林業機械を使用しているが、急傾斜地や、集材距離が長い場合、大径木の搬出などの場合には、やはり昔から行われてきた架線集材にはかなわない。大谷林業では現場に合わせた架設方法を徹底して追求。架線を使う人が減少したため、揃えるのが難しくなってきている架線用資材も常に15セット用意している。林業の未来、架線集材の役割を考えたとき、大谷林業の仕事ぶりから学ぶべきことは多いはずだ。

上で集材機を運転するのは、社長の川又さんの息子である一芳さん。下で作業する川又さんと無線でやりとりし、しっかりと確認してから慎重に機械を動かす

❹搬器に掛けやすくするため、曲がっている木の根元を伐る　❺上に引き上げられてきた木は10メートル以上。架線集材だからこそ、長いまま運び出すことができる　❻山土場に立つ元柱。伐採地の奥の先柱とワイヤーでつながり、搬器を移動させるための支柱の役目を果たす

急傾斜地の厳しい現場こそ架線集材の技術力の見せどころ

現場は約30度の急傾斜地。厳しい現場に驚かされたが、「いつもこんな感じだよ」と川又さん。写真左に、作業をする姿を見ることができる。伐採現場の下に道があれば、木を転がして運ぶことも可能だが、下に大きい車が入る道がないので上から架線で吊って運ぶしか方法はないのだ

【Specification】

現場架設仕様
●メインケーブル（主索）φ24mm　●リフチングライン（荷上索）φ12mm　●ホールライン（引寄索）φ10mm
作業効率
●8m³/人日　1日24m³を集材

地形によって集材方式を使い分け プロフェッショナルの技を魅せる

右側に見えるのが、集材機。ここから元柱につながるワイヤーが見える

❶今回の現場で使用した集材方式は、フォーリング・ブロック式。このような搬器で、伐採面に散らばっている材を効率的に集材している。ウインチ吊り上げ能力3t、ロープスピード150～500m/分　❷伐倒した木の根元に切り込みを入れて、滑車を引っかけるアンカーとして利用する　❸下から運ばれて来た木をフックから外す作業をする、渡部さん（右）と一芳さん（左）

緑の担い手

～大自然の中で、プロ意識を持って働く人たち～

多いときは社員が10人もいたという大谷林業だが、伐採箇所の減少で今は3人。架線集材を見学したときも、主に社長の川又さんが下で荷掛けや木を伐る作業、息子の一芳さんが集材機を運転、渡部さんが集まった材をまとめる役割で効率良く、仕事が進められていた。

常に新鮮な気持ちで臨める

川又 一芳さん

年齢：39歳

林業経験：15年

子供の頃からいつも休みの日には、父が現場に連れていってくれました。そこで遊びのような手伝いのようなことをしていたので、ごく自然な形で林業に関わることになりました。この仕事は同じことの繰り返しがないので毎回、新鮮な気持ちで臨むことができるのが面白いと思います。自然を相手にしているので、天候に左右されやすいのが難しいところですね。

Kawamata kazuyoshi

自然の中で活躍できる仕事

渡部 慧偉さん

年齢：68歳

林業経験：2年

35年ほど土木建設業に就いていました。林業経験が少ないので覚えなければならないことがまだまだたくさんあります。肉体的にも決して楽な仕事ではありません。でも日本の森林資源を有効活用するためにも林業は絶対必要だと思います。自然の中で自分の能力を磨き、活躍できる場だと思いますので、今後も林業業界に若い力が参入されることを期待します。

Watanabe keiji

【事業体Data】

大谷林業

住所／三条市大字島潟126番地2　電話／0256-46-4679

設立／50年　資本金／1000万円　従業員数／3人

勤務時間／8：00～17：00　主な勤務地／新潟県・隣接県

主な従事業務内容／架線集材、木材販売、
架線ケーブル セット・リース

【事業主コメント】

最近は高性能林業機械が普及して、作業の効率も良くなり、快適に仕事ができるようになりましたが、その反面、高性能林業機械が入って行けない現場もたくさんあります。地形によっては、昔ながらの架線集材の方が有効なのです。架線の架設方式もエンドレス・タイラー式、フォーリング・ブロック式など目的によって種類を選べます。ぜひ、架線集材にもチャレンジしてみてほしいと思います。

大谷林業 代表 川又義輝

緑の担い手を目指そう!
にいがた山しごと情報誌 **Niigata Forestry Magazine**

取材記

平成23年11月から平成24年2月までの約4ヶ月間にわたり、
新潟県内各地の林業事業体を取材して、この冊子ができあがりました。
その製作スタッフによる「取材記」をお届けします。
取材を通してスタッフが肌で感じた思いを、ぜひご覧ください。

＜スタッフ紹介＞

私たちが取材にお伺いしました!

【ライター】
Tomoko Kuwabara
桑原知子

取材を重ねるごとに林業に魅了されています。現場の皆さんの笑顔もとても印象的!

【ライター】
Yoshinori Watanabe
渡部吉則

福島出身です。新潟の豊かな自然、温かい人柄、ご当地グルメに浸っています!

【カメラマン】
Shinji Nakazawa
中沢真二

林業に携わる皆さんの頑張っている様子を写真を通して伝えていきたいと思います!

阿賀町
H24.2.29 取材

有限会社 中惣林業

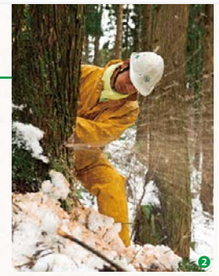
林業事業体の取材もこの日がラスト。そしていつの間にか林業にどっぷり浸かっている自分。最後は見どころ盛りだくさんと聞いて、若干興奮気味で現地に向かいました。「寒伐り」や搬出法など(詳しくは本誌で!)、雪国の林業ならではのメリットがいくつかあって、不利なことだけじゃないと安堵した次第。この森で110年も生き続けた大木が、ゆっくりと倒れていく様を見ていて、何か神聖な儀式に立ち会えたような気持ちになりました。

❶大木が雪けむりを上げて倒れる。一瞬、静寂な森がひっくり返るような爆音と地響きに包まれた ❷倒した木に腰かけ一服。右が伐倒した"親方"飛田野和男さん ❸豪雪地域特有の根曲りも一定の年数を超えると真っすぐ戻り美しい立ち姿に ❹履帯が外れた37年選手のブルドーザーを全員で修理にあたる。5人にとっては大事な仲間の1人 ❺ログハウス購入を機に40歳を過ぎて林業の世界に飛び込んだ大久保さん ❻太平洋沿岸育ちの渡部が初めて見たナマかんじき!

五泉市
H23.11.15 & H24.1.20 取材

中蒲みどり森林組合

中蒲みどり森林組合は2回に渡っての取材でした。1回目は、木材市の見学。こちらでは毎月、木材市が開催されますが、この日は年に一度の「国産優良材展示特別市」の日でもあり、たくさんのお客さんが集まっていました。2回目の取材は1月下旬。雪の積もる現場です。見慣れたはずの伐採や重機を使っての作業も、雪と寒さでいっそう厳しく映りました。そんなとき「私達は厳しい仕事をしているからこそ、笑顔が大事なんです」と話してくれた鈴木清さん。とてもすてきな笑顔でした!



❶現物を確認する皆さん。スギがほとんどだが、マツやケヤキ、サクラなども ❷雪山での伐採。冬場は木が凍ると切りにくいという ❸林業歴40年の大ベテラン、鈴木清さん ❹木材をつかんで方向を360度変えられるグラップル。これまで3人必要だった積み込み作業が1人で可能に ❺木材市に並ぶ木について説明してくれた組合の桐生要一さん ❻木材市は入札方式。気に入った木の番号に単価を記入した入札書を入れる

現場:柏崎市 H23.12.2 取材

大谷林業

「大谷さんの伐採現場は見応えがありますよ」と、取材前から話を聞いていましたが、本当に驚きました。まるで映画のロケ地のような尾根に取り付いている現場。山頂からおそるおそる覗いた先には広大なパノラマが広がり、眼下に小さく、社長の川又さんの姿が。このように傾斜が急な山では、作業道を作ることが困難なので架線を使って集材するのですが、厳しい現場での仕事が可能なのは、高度な架線技術を持つ大谷林業だからこそ。素晴らしい仕事に感動しました。

❶川又さんはどこにいる?!(ヒント左下)真ん中に見える架線を使って川又さんが切った木を山頂に運ぶ ❷「すごい現場ですね」と話すが「うちはいつもこんなもんだ(笑)」 ❸山頂から下で作業する川又さんを見る、息子の一芳さん ❹ここで切った木について説明してくれる川又さん ❺集材機を運転する一芳さん。荷を動かすタイミングなど、下の川又さんと無線でやりとりする

村上市
H23.11.1 取材

村上市森林組合

まるで第1回目の取材を祝福するかのように、11月とは思えないほど、お天気に恵まれた日。新潟県内でも林業の盛んな地域として知られる山北エリアに向かいました。弥彦山登山さえギブアップした軟弱な私は、整備されていない自然の森に足を踏み入れるのも、林業の仕事を実際に見るのも初めての体験。森の美しさに、そして森を守る皆さんの仕事ぶりに圧倒されっぱなしで林業の素晴らしさを実感した一日でした。

❶村上市森林組合の皆さん ❷倒された木の切り口を見て「良い切り方だった」と話す、村上市森林組合の大滝さん ❸「森で仕事をしていると森林浴もできるし、心が穏やかになる」と話してくれた佐藤さん ❹木漏れ日が差し込む静謐な森は、まさに息を飲む美しさ ❺杉を切った跡地の焼畑でできた立派な大根と赤かぶをおみやげにいただいた ❻木が倒れる瞬間を初めて目にして、大コーフン!

佐渡市
H23.11.28 取材

両津東部森林組合

朝6時出港の佐渡汽船に乗るため自宅を4時半に出発。福島出身の渡部としては初佐渡で、朝から興奮気味でした。客室に入るや否や、皆さん毛布をかけて寝始めたことに驚きつつ、自分はデッキに出て潮風を浴びるも寒くてすぐに客室に戻り、同様に「Zzz…」でした。佐渡の取材で気になったのは竹林の問題。かつては竹製品で栄えた佐渡も、現在は需要がなくなり手入れもされず竹は繁茂し枯れる一方とのこと。工業化や効率化の問題がここにも見てとれました。

❶両津港から車で10分弱。イメージになかった海に面した森林組合 ❷中山組合長に取材。自然の循環、第一次産業の保護、佐渡の産業史などの話を伺う ❸足場の悪い急斜面での除伐作業 ❹鬱蒼として光も入らない竹林。理想的な竹林は傘を差して歩けるぐらいとのこと ❺ベテランの親松さんからチェーンソーの説明を受ける ❻松くい虫防除作業中。トキはアカマツに巣を作りやすく、アカマツの保護も重要な佐渡の仕事

山仕事コラム

林業の七つ道具

いろいろな道具を使って仕事を行う林業。ここでは、主な道具や装備について説明します。さまざまな道具を使いこなして、林業のプロフェッショナルを目指そう！

model：ぬながわ森林組合 恩田正宏さん

●呼子笛（よびこぶえ）

現場は、重機の音やチェーンソー、刈払機の音が響いているため、大声で呼んでもわかりません。伐採の際の合図にも使います。写真はヘルメットに付けるタイプ。

●手袋（防寒・防振など）

林業は、刃物を扱う仕事です。不意に刃に触れても怪我をしないよう手袋は必須です。皮製や合皮、繊維強化タイプも使われます。

●チェーンソー

言わずと知れた、林業の代表的な道具。上手に目立てが出来るようになれば、仕事のスピードもアップ。振動が少なくなり、燃料の消費も抑えられます。

●長靴・地下足袋（じかたび）

山の中では、短靴は禁物。脱げたり、ゴミが入ったり、笹などが刺さったりして危険です。木の上や粘土質の所を歩いても滑らないようスパイク付きのものを愛用している人も多いです。また、地下足袋も根強い人気があります。

●ヘルメット

大切な頭を守るため、必ずかぶります。切り粉の飛散防止、耳の保護のため、フェイスガードやイヤーマフが付いているタイプもあります。

●ナタ・手鋸（てのこ）

山仕事では、ナタや手鋸が必需品。必ず腰に装備しています。フジのつる切り、簡単な測量杭作り、細い木の伐採などにも重宝します。

●腰袋

伐採の時に使う小道具を入れます。チェーンソーの工具・ヤスリ、クサビ、クサビを打つハンマー、木材チョーク、砥石などが入っています。

●刈払機

主に下刈や除伐作業で活躍します。安全対策のため、肩掛けバンド等を着用し、刈払機と身体を固定して使います。

❶❷チェーンソーのエンジンを止めて刃にやすりをかけ「目立て」する井川さん。目立ては、森林技術員にとって重要な仕事。チェーンソーを固定するやり方は人それぞれのスタイルがあるが、目立て方法は同じ

虫除けの網で顔を覆い仕事をする森林技術員の坂西さん。虫除け効果のほか、切り粉が目に飛んでこない効果もある

緑の担い手を目指そう! にいがた山しごと情報誌

Niigata Forestry Magazine

林業事業体レポート File06

魚沼市森林組合

【魚沼市】

ベテラン中心の森林技術員 事業を広げ、地域の雇用を創出

取材で訪れたのは、組合事務所から車で約30分、旧堀之内町の森林内。「漁場保全の森づくり事業」として除間伐作業が行われていた。森林技術員は2名。それぞれが持ち場を担当し、100mぐらい離れた場所で作業している現場だ。刈り払いをして伐採、倒した木の枝をきれいに切り落として玉切りし、集積するという一連の作業を、黙々とこなす。広く静かな林の中で、チェーンソーの音だけが鳴り響いていた。

森林整備事業の主な業務内容は森林の除間伐、河川管理の草刈り、道路建設のための支障木伐採、最近では災害後の倒木・土砂の片付けなど。組合としての木炭生産(炭焼き)事業は中国産との価格競争に押され平成13年に終了したが、今でも山間部の福山地区などで、数名の職人が炭焼きを営む。組合の森林技術員は通年雇用ではなく期間雇用で働いている。冬期は、一旦解雇になり、各々が冬場の雇用先と個人で契約を結ぶ。ほとんどの人が冬場はスキー場で働いているが、醸造元で杜氏として働く人もいる。

❸天気のよい日に森に入る心地よさは何事にも変え難い。木々の間から優しく光が漏れる取材日の現場

❹倒した木は一定の間隔に玉切りする ❺切り落とした枝を集積しておく。急斜面での作業は体力を要する

緑の担い手

～大自然の中で、プロ意識を持って働く人たち～

組合では15名の森林技術員が活躍中。現場は3～4ヵ所に分かれ、作業経験や技術面、通勤距離などを考慮してそれぞれの現場に割り振られる。年齢層は50代が中心となっている。欠員が出ると随時求人募集をしているが、若い人からの応募を待っているとのことだ。定年は65歳。

ベテランの森林技術員として「目立て」について教えてくれた井川さん（右）と坂西さん（左）。
中央の高橋さんは各現場を管理している

井川 高さん

年齢：55歳

林業経験：18年

これまでケガはありません。無理はしないことですね。

林業を始めたきっかけはバイトからでした。1年早く始めた友達の手伝いをしていたら、結局そのまま続けることになりました。以前は別の仕事をしていて、Uターンで戻ってきたんです。

これまで辞めたいと思ったことは一度もないけど、休みたいなと思うことはあります。特に冬場ですね。最近は冬に伐採の仕事はありませんが、以前は工事関係で冬でも伐採があったんですね。雪の中での仕事はつらかったです。日々の主な仕事は山の手入れ、整備をしております。

注意しているのは、ケガをしないようにすること。お陰さまで、これまで一度もケガをせずにやってこれました。無理はしないことです。無理な仕事の時は「できません」って言うことですね。

Takashi Igawa

坂西 真登也さん

年齢：49歳

林業経験：9年

大自然の中で己と闘う――それがこの仕事の魅力です。

父親が林業をやっていた関係で、山の仕事は子どもの頃から馴染みがありましたね。中学・高校になるとバイトとして山に入って、下刈りなどをして父の仕事を手伝っていましたよ。当時は大型宅地造成やゴルフ場開発などが盛んで、ひと山ふた山を全部刈り取っちゃうなんてこともありました。ですから、身近に林業の時代の変化は見てきています。

若い人には、林業の世界にどんどん入ってきてほしい。誰にでもできる仕事ですから。この仕事の魅力は、大自然の中で己と闘うってことですね（笑）。何人かで山に来ても、仕事が始まるとほとんど1人ですから。山で叫んでも歌っても構わない（笑）。とても気持ちがいいですよ。

Banzai Matoya

【事業主コメント】

現在の森林整備の仕事量からすると、森林技術員は15名がちょうどよい人数ですが、定年や退職でその都度欠員補充していく予定です。20代30代の若い人に入ってきてほしいですね。未経験者でも新潟県等で各種人材育成対策が講じられており、技術や資格を身に付けることができるので安心してください。この業界は40代50代でもみなさん体力がありバリバリです。これまでもUターンやターンで林業を始める人を何人か受け入れてきました。新しい人のチャレンジを応援します。

魚沼市森林組合 代表理事組合長 平井正尚

【事業体Data】

魚沼市森林組合

住所／魚沼市細野208-1　電話／025-797-2142　設立／平成17年（合併）
出資金／5508万円　従業員数／38人（うち森林部門15人）
勤務時間／8:00～17:00　主な勤務地／魚沼市
主な従事業務内容／刈払機、チェーンソー及び枝打機を使用しての森林整備作業、下刈、除伐、間伐、枝打ち、刈払い、伐採作業

❶道路に車を止めて、現場はさらに森林の奥深くへ入っていく　❷現場では比較的小さな木の伐採が行われていた。道路に近いところで大きめの木は搬出するため長材にし、小さな木は細かくして集積しておく。ここから出す木はペレットの原料になるという。同社の森林技術員は若手が多いが、「うちの連中のレベルが上がってきたので、この程度の現場だったら難なくこなすよ」と写真の俵山さん

晩秋ともなれば雪が降り始める十日町市の作業現場。常に若手の動きを見て、声かけを忘れない

緑の担い手を目指そう! にいがた山しごと情報誌

Niigata Forestry Magazine

林業事業体レポート File07

株式会社 村山土建

【十日町市】

林業の重要性から新部署設立 毎年、若い人材を積極採用

十日町市の総合建設業「㈱村山土建」。平成18年に新部署として森林環境課を立ち上げた。自社で管理していた広大な山林を専門に担当する部署が必要になったこと、森林組合を退職した経験豊富な人材の受け入れ、さらに環境保護に取り組む意識が重なり立ち上げに至った。同課の主な業務は、森林整備の他に、土木工事前の準備工としての草刈り・雑木の除去、災害後の山の土砂や倒木の片付けなど多岐にわたる。

林業は投資から回収までに非常に長期間を要する産業であるため、通常の会社経営とは大きく異なる面があり、経営を成り立たせていくのは厳しい。それでも同社は将来を見据えて森の仕事の重要性を認識し、業務を継続・発展させる計画を立てている。森林環境課の社員は7名。そのうちベテランを除く若い社員の多くは新卒採用。若い部署ではあるが、長年の経験を積んだ熟練者がいることは、若手にとって心強いはずだ。取材で訪れた現場でも先輩が若手に近づき声をかけたり、実際にやってみせるなど細かい指導にあたっていた。

❸チェーンソーを肩に担ぎ、仕事の状況確認をする　❹ひょいっと担ぐ様がいなせに映る"山の職人"。チェーンソーを持ち歩く時、立ち止まって話をする時などは、このようにバーを後ろ側にして担ぐのが通例　❺森林環境課を取りまとめる斎木課長。後進の育成に全力を傾ける熟練技術員　❻森林環境課の暖はペレットストーブで、お湯も沸かせるタイプだ。林業の将来を明るくするバイオマス事業だけに、率先してペレットを使っている

緑の担い手

～大自然の中で、プロ意識を持って働く人たち～

設立6年の若い森林環境課は、主に20代と50代で占められている。親子とも言えるこの年齢差は、絶対的な信頼感を寄せたり教育熱に火を付けるにはちょうど良い。10年後20年後になった時、現在の若手がどのように成長を遂げ、どのような新しい師弟関係が生まれているか楽しみだ。

Tawarayama Masuyuki

俵山 益幸 さん

年齢：53歳

林業経験：30年

技術は本人自ら体得すること

長く森林組合に勤めていましたが、6年前から「㈱村山土建」にお世話になっています。林業に必要な資格は重機を含めて大体取得しています。組合では主に林産活動を業務にしていましたが、こちらに移ってからは林の手入れ、除間伐、小さな木まで構うようになったかな。現場では指導的な立場で、若い社員の面倒を見ています。指導とは「教えて見せてやらせて褒めて指摘して」いくことの繰り返しだけど、やはり木は1本1本違うし、本人自ら覚えてもらうしかないですよね。山は気持ちがいいですよ。木が芽吹いて山菜が出てくる春と、キノコが採れて紅葉が見られる秋は特にね。夏と冬はいるだけで大変だけど（笑）。

Kosugi Daiki

小杉 大樹 さん

年齢：21歳

林業経験：2年

経験を重ね仕事の幅を広げたい

この仕事を選んだきっかけは、家が農家で、草刈りや山の仕事をよく手伝っていたので多少慣れていたということがあります。そういう理由で、森林環境課がある「㈱村山土建」を志望して採用いただきました。入社当初は先輩が伐った木の処理や道具の片付けから教わり、段々と木を伐る仕事も教えていただくようになりました。木の1本1本手を抜かずに作業することを常日頃から意識してやっています。私は森林環境課で一番の若手。チェーンソーなどの基本的な資格しか持っていませんが、これから車両系などを取得して仕事の幅を広げたいです。早くグリーンエキスパートを受講したいと思っていますよ。

Kubota Kyouhei

久保田 恭平 さん

年齢：24歳

林業経験：5年

先輩目指して林業のプロに

会社説明会で森林環境課のお話を聞いて興味を持ち入社しました。元々体を使う仕事をしたいと思っていたんですよ。数年前、グリーンエキスパート講習を受けて、各種資格を取得しました。林業の仕事は、伐採や枝打ちできれいになった森林を見ると充実感に浸れます。森林環境課はまだ若い部署ですが、斎木課長や俵山さんのようなベテランの方に教えていただけてありがたいです。後輩も入ってきて教える立場でもあるので、手本となれるよう頑張りたいです。最近は役所の方と打ち合わせ、現場の森林調査などの仕事も担当するようになりました。将来は我が社の先輩のような林業のプロになりたいと思っています。

【事業主コメント】

株式会社 村山土建 代表取締役社長 村山政文

当社では、高卒を中心に若い人を積極採用しています。現場では林業のベテランから実技指導を受けられるし、専門資格も取得できます。経験を積めば自信もついてくるはず。若い社員は、同世代と一緒に仕事ができるから励みにもなっているでしょう。林業は自然が相手だから労働環境は厳しいです。高い所に登ったりチェーンソーや重機も扱うから危険も伴います。でもその分奥が深くて面白い。自然の循環を考える上で、森をきれいにする仕事は大事です。自分の仕事が地球規模で大きな役割を担っているという夢や志を持つことで、やりがいが芽生えてくるはずです。

左から斎木課長、村山社長、金井常務

【事業体Data】

株式会社 村山土建

住所／十日町市山本71番地１　電話／025-752-3721（代）

設立／昭和20年　資本金／3000万円

従業員数／133人（森林環境課7人）

勤務時間／8:00～17:15　主な勤務地／十日町市

主な従事業務内容／特定建設業・一級建築士事務所・測量設計事務所・森林整備業・産業廃棄物収集運搬業・宅地建物取引業・石油類給油所

上越市内から車で約40分の山林内で、若い2人のスタッフが伐採作業をしている。倒木後、運び出すために一定の長さに切る「玉切り」の作業中

緑の担い手を目指そう! にいがた山しごと情報誌

Niigata Forestry Magazine

林業事業体レポート File08

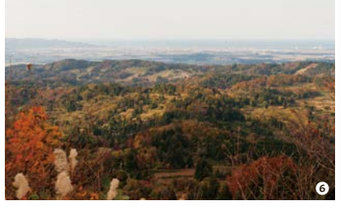
くびき野森林組合

【上越市】

女性や若手スタッフが活躍 豪雪地帯でも通年雇用を維持

「くびき野森林組合」は本所の他に、頸北支所、頸中支所がある。訪問したのは、若手スタッフが活躍している頸中支所の現場。20代・30代のスタッフを中心に活気にあふれた雰囲気。特に紅一点、梨本雅子さんが場の雰囲気を明るくしていた。若手から発せられるエネルギーがベテランスタッフにも好影響を与えている。以前は期間雇用、つまり冬場は解雇という契約で従業員を雇用していたが、近年は若手の定着などを目指すため通年雇用に切り替えている。実際、積雪の影響で12月半ばから翌春4月半ば頃までは林業の仕事は中断となるが、その間、管内にある海岸保安林整備や治山工事、薪割り、高齢者世帯の除雪作業などで冬場の仕事を確保している。後のページで紹介する鉄道林整備も大きな業務の一つとなっていて、雇用維持のために業務の幅を広げる努力を積極的に行っている。豪雪地帯は根曲り・幹曲りする木が多いため、バイオマスなどの新しい販路開拓が課題となっている。

❶頸中支所から現場へ向かう準備をしている梨本さん ❷組合からも期待される若手の2人、梨本さんと富村さん。梨本さんが手にしているのは木の高さを測るためのポール。森林内の樹木の本数や木の太さ・高さなどを測るプロット調査などの業務も行う



❸木を倒す方向を決めるために、枝ぶりなどから木の重心を確認する富村さん ❹写真向かって右側の受け口を入れた後に追い口を入れる。追い口の位置や高さは状況に応じて変わってくる ❺輪尺を使って幹の胸高直径を測る。胸高は胸の高さのことで、日本では地上から1.2mの高さ ❻現場は、頸城平野と日本海が一望できる絶景の場所。この眺めを堪能できるのは森林技術員の特権だ

電車走行中は、見張りの指示のもとに作業を中止し退避する作業スタッフ。くびき野森林組合の鉄道林整備は、冬場でも仕事が発生するため重要な業務だ

電車の安全走行を維持する鉄道林整備も組合の重要業務

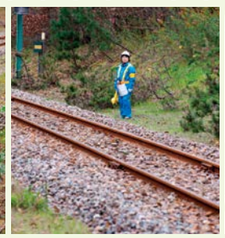
❶線路まで伸びる雑草や電線にかかる支障木。電線には6,000Vの電流が流れている。伸びた枝が電線に引っ掛かり放電したら非常に危険　❷線路脇まで車で乗り入れ、作業準備に取り掛かる。車で入れない場所もあるので、道具を持ちながら徒歩で向かう場合も。冬場の積雪時などは特に厳しい現場もある　❸電車の通行時刻、人員の配置、作業内容、安全確認など、作業前に入念なミーティングを行う

❹工事発注者から事前にピンクのひもで指定された支障木。線路側ではなく、反対側に倒すためにあらかじめロープを木にゆわえつけ作業する　❺樹高よりも長いロープで引っ張る。この木はさほど高くないが油断は禁物　❻運びやすい大きさに伐り、集積しておく。運搬は後日の作業

❼線路に対して平行に倒すために、奥から2人でロープを引っ張っている。大きな木の場合はチルホールなどのけん引用の機械を用いることも　❽倒した後に枝を払い、玉切りする　❾処理した木や枝を所定の場所へ集積

細心の注意を払う鉄道林整備 POINT

電車が走行する上で支障となる木の伐採や刈払いなどを行う鉄道林整備。細心の注意を払うべきは、電車の通行を妨げないこと。電車が通過する10分前に作業停止、安全な場所で全員退避。万一電車との接触が生じたら甚大な事故になってしまうし、電車を止めてしまうようなことも絶対にあってはならない。上り下り両側に1人ずつ計2名の見張りを付けることが義務付けられ、線路・電線側にかからない伐採方法をとるなど、常に慎重な技術を求められる。線路の刈払いなどは夏場に実施。日陰がなくきつい作業になる。



緑の担い手

～大自然の中で、プロ意識を持って働く人たち～

若手中心の採用と通年雇用により20代・30代の活躍の場が増えてきている。若い森林技術員が加わったことで現場は明るさと活気に満ちていた。組合は重機の導入、資格取得にも積極的。ベテランも含めて各年齢層から多様なアドバイスをもらえるのが心強い。

頸中支所の現場スタッフ。晩秋の雨の中という厳しい環境ではあったが、現場近くの東屋で笑顔を見せてくれた

女性が続けられる職場環境を率先して作っていきたい

Nashimoto Masako

梨本 雅子さん

年齢：32歳

林業経験：5年

以前は妙高市のスキー場で働いていました。26歳の時に、林業の仕事をしていた先輩が男手を探していると聞いたので、思い切って「私でよければお願いします！」と申し出ました。冬は山にいましたが、「夏の山も知りたい」と以前から林業に興味があったのです。初めは組合の方から、大変な仕事だよと言われました。夏の暑い中の肉体労働、山にはトイレがないし、着替えなども大変だろうと。それでも今、自然の中で仕事をできる喜びを実感しています。約1年の産休育休をいただきましたが、女性はそのような面でも男性より経験・技術が遅れがち。だから少しでも長く続けて、林業の多くを学べる環境を率先して作っていきたいと思っていますね。

熟練の大先輩から技術を習得できありがたいです

Tomimura Takeshi

富村 剛志さん

年齢：28歳

林業経験：3年

前職はスキー場での仕事でした。林業は同じ山の仕事ということで、すんなりと転職できましたね。3年間林業の仕事をしてきましたが、やればやるほど面白みが出てきて、奥深さを感じています。特に、狙った方向に木が倒れた時などはうれしいですよね。正直、始めた頃は、体力的につらくて夏場などは嘔吐しそうになりながら仕事をしていましたけど、今はだいぶ慣れて大丈夫です。うちの組合にも60代・70代の大ベテランがいますが、この仕事は20年から30年やってようやく技術が身につくと思っていますから、長く続けるつもりです。幅広い年代の方とお話をするのは面白いですしね。熟練した先輩はもちろんすべての先輩をお手本に頑張っています。

組合の仲間と毎日楽しく仕事をしています

Blakie Nicholas

ブレイキー・ニコラスさん

年齢：50歳

林業経験：8年

オーストラリア出身です。日本の農業"田んぼ"をやりたくて上越市に来ました。山が好きだったこともあり、農業から林業へ移りました。仕事では、刈払いや枝打ちが好きかな。組合の皆さんは優しい人ばかりで毎日楽しく仕事をしています。登山とサーフィンが趣味なので、上越は僕にとって過ごしやすい場所です。

［平成6年10月・日本帰化］

【事業主コメント】

くびき野森林組合 代表理事組合長 中川耕平

森林の現場で働くスタッフの年齢層は20代から70代まで各層幅広くおりますが、60歳以上は期間雇用とし、優先的に若手11名を通年雇用としています。ですから仕事の中心は、30代から50代。通年雇用など待遇面の改善もあり、最近は若手の定着と技術力の向上が見られます。これからの林業は機械化に向かっていますし、伐採した木の搬出経費を考えても機械化は重要と捉えています。県のグリーンエキスパートにも参加させてもらい、積極的に重機の免許を取得させています。

【事業体Data】

くびき野森林組合

住所／上越市新光町1-11-19
電話／025-522-1920
設立／平成13年（合併）
資本金／7012万円
従業員数／53人　勤務時間／8:00～17:00　主な勤務地／上越市
主な従事業務内容／森林整備・治山工事・請負工事・廃棄物処理（木くず）

能生の内陸側にある百川地域。個人所有の森で利用間伐をするため作業道を作っているところ。写真は森林技術員として経験年数5年の恩田さん

❶現場では2人の若手森林技術員が作業していた。木の伐採を担当しているのは恩田さん。木を倒す時に「ピーッ」と大きく笛を鳴らし、パートナーに注意を呼び掛けた　❷伐採後にバックホウで伐根し地面をならし、作業道を作る。オペレーターは林業歴5年の木島さん

緑の担い手を目指そう! **にいがた山しごと情報誌**

Niigata Forestry Magazine

林業事業体レポート File 09

ぬながわ森林組合

【糸魚川市】

若い人材の起用と高性能機械を駆使して新しい林業を切り開く

平成23年度、森林技術員は29名。そのうち通年雇用は7名。残りの20名以上は短期雇用や臨時雇用契約で比較的年配者が占めている。通年雇用は若手を中心に4名が20代と、5～6年前から若年層への人員構成に切り替えている。技術を習得するには、じっくりと腰を据え、長期にわたって仕事をする必要があるからだ。取材では、主にこの4名が働く現場をまわった。搬出コストを削減するために、今後ますます使用現場が増えてくるであろう高性能林業機械を導入しているのも組合の特長。グラップル付きバックホウ、造材用のプロセッサ、運搬用のフォワーダなどが、それぞれの現場で稼働している。森林技術員には、一定の年数を経るとこれらの高機能林業機械を取り扱う資格講習を受講させるなど、人材育成に力を入れている。また、木材市を組合独自で運営しており、平成23年3月には通算500回目となる記念市が行われた。地元産の材を地元の製材所と取り引きする、地産地消を進めながら今後も地域林業の活性化のため木材市を継続していく。

❸竹林の奥にあるスギ林から材を出すために、竹林に作業道を作っている現場。まずは竹をチェーンソーで伐採するところから始まる　❹❺バックホウで土を掘り、ならしながら前へ進んでいく。オペレーターは、林業歴5年の渡辺さん。「竹はなかなか倒れないから大変ですね」。傾斜のある竹林を分け入って作業道を作るのは容易ではない　❻林の奥にあるスギ林を搬出間伐するのがここの現場の最終目的

公園内の整備から山での植栽まで 森林技術員に求められる幅広い業務

❶支障木を倒し、集積するため玉切りをする森林技術員の吉野さん　❷公園内の小さな支障木伐採は難しい作業ではないが、基本動作を怠らないで確実に処理する　❸春のサクラはもちろん、木々の緑や紅葉でも市民に人気の美山公園。林の中まで光が入るようにきれいに整備された作業完了後の様子　❹支障木伐採や刈払いなど公園内整備も森林組合の定例業務となっている。この日は、6人で公園木の整備にあたっていた

❺❻組合の森林技術員9名によるブナの植栽作業。この現場では2.1haに5,250本の苗木を植えている。広葉樹は葉が落ちてからが植えるタイミング。2mの間隔をあけて1本1本丁寧に土をかぶせる　❼海からほど近い植栽の現場。後ろに見えるのは日本海

広葉樹の植栽について POINT

今回訪れたのはブナを植えている現場。スギなどのような木材を採るための植栽と違って、ブナなど広葉樹の植栽は、生物多様性を守り、土砂の流出を防いで川や海をきれいに保つなど、豊かな自然環境づくりを目的として行う。植えてから10年間くらいは下刈りをするが、広葉樹の苗は目立たないので苦労する。この現場では誤伐しないように、苗木に青いビニールテープの目印を巻いていた。ブナのほかに植栽されることが多い樹種は、ケヤキ、コナラ、イタヤカエデ（アカイタヤ）など。地域の自然を守るためには、植栽地近くの森林から採った種で育てた苗を使うことも大切だ。

緑の担い手

～大自然の中で、プロ意識を持って働く人たち～

通年雇用の森林技術員は7名。その内4名が20代で、経験も4～5年とまさに脂がのってきた頃。それぞれが伐倒や機械運転など林業に必要な技術を身につけ、現場の中心的存在となって活躍中。期待の4名にインタビューした。

作業道を作る仕事中だった木島さん、恩田さんの若手2人。
左は総務部長の岡田さん

出した木が建物の部材になるのがうれしい

Kijima Satoshi

木島 聡さん

年齢：27歳

林業経験：5年

重機のオペレーターや木の伐倒、運搬、林業の仕事は一通りなんでもやります。この仕事を選んだ動機は、自然の中で仕事をしたいと思ったから。外で体を動かす仕事がしたかったのです。つらいと思うのは、雪など天候が悪い日。それでも作業を終えてきれいな林を見るとうれしくなりますよ。林業の魅力は、自分達で出した木が建物の構造材になっていくことですね。

森林での経験が市場の仕事に生きています

Onda Masahiro

恩田 正宏さん

年齢：26歳

林業経験：5年

1年目は短期雇用でしたが、2年目から通年雇用になりました。市場と山、両方で仕事をしています。市場では、木材の販売などお客さんとやり取りしています。自分の値付けで売れた時はやはりうれしいですね。山での作業が木材の見方を養っていると思います。林業は自然が好きな人にはおすすめ。スノーボード仲間にも林業に携わっている人が多いですよ。

危険を伴う林業、緊張感を持って仕事を

Yoshino Yasuyuki

吉野 康之さん

年齢：26歳

林業経験：5年

実際に林業の仕事を始めてみたら、その面白さに気付きました。自分が手を入れた山がきれいになっていくのは、見ていてうれしいです。ただ、ハードだなと思うこともしばしば。木が倒れてきて、ひとつ間違えたら命さえ危ない時もありましたし…。緊張感を持って仕事をしないといけませんね。将来的にはもっと技術力を高めて組合の先輩を目標に頑張りたいです。

基本を覚えれば後は応用、楽しんで仕事を

Watanabe Atsushi

渡辺 厚志さん

26歳

林業経験：5年

以前から林業に興味があり始めましたが、実際やってみると大変でした。2年目で車両系の資格を取らせてもらいました。機械を動かす仕事が好きで、普段はプロセッサの運転が多いかな。危険だと思うのは、林の中で機械を振り回す時。人や木にぶつかりそうになったことがありました。仕事は一度基本を覚えてしまえば、あとは応用ですから。楽しんでやりたいですね。

【事業主コメント】

ぬながわ森林組合 代表理事組合長 大矢 弘

これからの林業は機械を使う現場がますます増えていくでしょう。当組合では積極的に高性能林業機械を導入し、若い森林技術員に運転技術をなるべく早く習得できるよう指導しています。現在、森林整備などの業務部で約30人、食品加工などの食品部で約30人の従業員と雇用契約を結んでいます。欠員が出た場合などに森林技術員の求人募集をしても応募が少ないのが実状です。今後も募集をしていく予定ですので、やる気のある方の応募を待っています。

【事業体Data】

ぬながわ森林組合

住所／糸魚川市南押上2丁目13番6号　電話／025-552-1533
設立／平成5年（合併）　資本金／1億5273万円
従業員数／75人（森林部門30人）
勤務時間／8:30～17:00　主な勤務地／糸魚川市
主な従事業務内容／森林整備・木材販売・食品加工

緑の担い手を目指そう! にいがた山しごと情報誌
Niigata Forestry Magazine

林業事業体レポート File 10

南魚沼森林組合
【南魚沼市】

❶道端に木材を揃えておくまでが今回の仕事。積み込みはトレーラーの運転手が行っている　❷グラップルで荷台に積んだ玉切りした木材を、フォワーダに積み込み、移動する　❸作業道を開設し、間伐した木材を搬出していた林産班チームの4名。休憩時はこんななごやかなムード

❹丸太をつかんで移動させる重機、グラップルの導入で作業効率アップ　❺このように木材を一度に何本もつかんだまま、角度を変えられるのがグラップルの強み　❻林産班では、全員が重機のオペレーター。どの機械でも乗りこなす

冬場スキー場で働く若者に理想的なワークスタイルを実現

南魚沼市は豪雪地帯のため、雪の重みで木の根元が曲がってしまう「根曲り」の木が多く、建築用材の生産には長期間を要する地域。また、豪雪地帯で冬期間は森林での作業が困難となるため森林技術員は12月の上旬から4月中旬までは解雇される期間雇用形態になっている。しかし、雪に耐えた木が強度としなやかさを持つように、期間雇用は冬場、近隣のスキー場で働いている若者にとっては、スキー場の仕事がない時期に働ける、理想的なワークスタイル。県外からの希望者も多く、毎年、4名以上の森林技術員を採用している。最初はそれほど林業に興味を持っていなかった若者も実際に現場に出て、ベテラン技術員たちによる見事な技術や知識に触れることによって、プロ意識を高めていくという。組合では、近年、「フジロックの森プロジェクト」の活動にも関わり、周辺の森のブナの植樹や地元の間伐材を使ったフリーペーパー、ボードウォーク(木道)材を提供。若者たちへ森の魅力をアピールするのにも一役買っている。

フォワーダ搭載のグラップルは、両手両足を使った複雑な操作で技術力が問われる。材の長さや太さを把握した上で、バランス良く荷台に並べる中嶋さん

荒れている山を手入れして美しい森林に再生する

枝打ちをするときは胴綱を巻き、腰に小型チェーンソーをさげて一本梯子を登る。枝が邪魔になって胴綱を外す場合に備えて、2本巻き付ける場合もある

❶枝打ちの道具は、写真のような小型チェーンソー以外に背負い式チェーンソーも使われるが、従来通りの手鋸やナタで行う場合もある

❷現場を案内してくれた、総務課長の平賀光義さん。「フジロックの森プロジェクト」などの活動で、若い人たちにも森に興味を持ってもらえると良いですね」と話す　❸湯沢町周辺の間伐材を活用した紙「フジロック・ペーパー」で作られたフリーペーパー。フジロックとコラボレーションした活動のひとつ

❹枝打ち後、美しく整えられた森。枝打ちすることによって、良質材を作るとともに森の中に光が入るようになる　❺現場は急な傾斜地。皆さんは休憩するときもこんな感じでなかなか落ちついて休めない　❻現場に残されたスギの切り株。心材の色が濃いのは「黒心」と言われるが、材質が劣っているわけではない　❼枝打ち作業は一本梯子に登って行われる。一番てっぺんまで登ると4メートルにもなるため高度感が増す

緑の担い手

～大自然の中で、プロ意識を持って働く人たち～

現場の技術員は全部で43名。
20～30代のやる気溢れる若者と
経験豊かな年配者のバランスも良い。
若者たちはグリーンエキスパートや
各種重機の資格も取得し、
作業効率を上げる重機を活用。
頼もしい後継者に育っている。

水谷 知弘さん

Mizutani Tomohiro

年齢：35歳

林業経験：2年

県外出身者にもおすすめです

祖父が山形で林業をやっていたので、小さい頃は一緒に山に行ったことも。祖父が「山は日本の国土を守る素晴らしい財産」と話していたのも覚えています。自分の仕事として意識し始めたのは、4年前に埼玉県から南魚沼市に引っ越してきてから。新潟は山が多く、緑に恵まれた、とても良い環境です。冬場のスキー場のように夏も山に関わる仕事ができればいいなと思っていたら、去年、スキー場で一緒に働いている仲間からこちらを紹介してもらいました。もともと雪山から興味を持って山が好きになったので、この仕事はやりがいがあります。私のように県外から来て、冬スキー場で働いている者には、とても良い仕事だと思います。

今井 幸博さん

Imai Yukihiro

年齢：30歳

林業経験：11年

山の成長を見続けられます

林業は、あまり人目につかない仕事ですが、長い年月に渡って森に携わることができる仕事。何十年、何百年後の後世にも残る、素晴らしい仕事だと思います。今、私の仕事は、重機を使っての搬出作業やオペレーターが中心でグリーンエキスパートの資格は何年か前に全部取得しました。実は、この仕事を辞めて他の仕事をしていた時期があるんです。でも、林業ほどの魅力を感じられなかったので戻ってきました。一度、辞めたからこそ、林業の仕事の良さに気付くことができたと思います。体力仕事だし、怪我の心配もあります。それでも山の成長を見続けられるというのは、大きな魅力になっていると思います。

高橋 大輔さん

Takahashi Daisuke

年齢：21歳

林業経験：1年

この業界に入ってから山への興味が広がりました

学生時代、ずっとスポーツをやっていたので、デスクワークよりも体を動かす仕事を探して、この仕事に就きました。仕事はとてもキツいけれど、その分、やり遂げたときの達成感がハンパじゃないです（笑）。他にこんな仕事はないと思います。過酷さに辞める人もいると聞きますが、自分は考えたこともありません。最初は現場に行くまでの山登りもすごくキツかったのですが、それを乗り越えたら大丈夫になりました。林業に興味を持ってこの仕事に決めたわけではないのですが、仕事を始めて山への興味が広がりました。まだ二年目なので、先輩たちのようにきれいに木を伐れるようになりたいですし、これからもたくさんのことを勉強したいですね。

【事業主コメント】

今は、資産としての山の価値が下がってきているけれど、南魚沼でも放置状態の山が増えているのは問題だと思います。森林整備は誰かがやらなければならない仕事です。うちでは、現場技術員は毎年、4人以上、今年は7人採用しました。定年になるまで辞める人も少ないので、全体の就業人数は年々増えています。現場技術員は来る日も来る日も山に行くわけだし、山に登るだけでも大変な上、作業は孤独。危険な作業もあり、常に緊張感が強いられる。我慢強い人じゃないと、この仕事はできないと思います。

南魚沼森林組合 代表理事組合長 杉山幸平

【事業体Data】

南魚沼森林組合

住所／南魚沼市舞子1819　電話／025-783-3349
設立／平成17年（合併）　出資金／1億2000万円　従業員数／54人（森林48人）
勤務時間／8:00～17:00　主な勤務地／南魚沼市・湯沢町
主な従事業務内容／森林整備、木材加工

緑の担い手を目指そう!
にいがた山しごと情報誌 **Niigata Forestry Magazine**

取材記

平成23年11月から平成24年2月までの約4ヶ月間にわたり、
新潟県内各地の林業事業体を取材して、この冊子ができあがりました。
その製作スタッフによる「取材記」をお届けします。
取材を通してスタッフが肌で感じた思いを、ぜひご覧ください。

＜スタッフ紹介＞

私たちが取材にお伺いしました!

【ライター】
Tomoko Kuwabara
桑原知子

取材を重ねるごとに林業に魅了されています。現場の皆さんの笑顔もとても印象的!

【ライター】
Yoshinori Watanabe
渡部吉則

福島出身です。新潟の豊かな自然、温かい人柄、ご当地グルメに浸っています!

【カメラマン】
Shinji Nakazawa
中沢真二

林業に携わる皆さんの頑張っている様子を写真を通して伝えていきたいと思います!

上越市　H23.11.7＆11.16 取材

くびき野森林組合

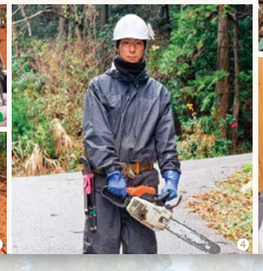
こちらは2日間に渡っての取材となりました。まず11月7日に同組合頸中支所のお仕事を拝見。朝からあいにくの雨で、カーラジオからは「上越地方に豪雨警報と土砂災害に注意!!」って、正直引き返したい気分。しかし取材現場で元気をもらいました!　若いスタッフが冗談を飛ばしながら明るく楽しい仕事ぶり。紅一点の梨本雅子さんが一番活動的で、場の雰囲気を作っていました。16日におじゃました頸北支所の鉄道林整備は、電車の通行に細心の注意を払いながらの緊張感ある現場でした。

❶若手のホープ富村さん(左)と女性林業人として期待される梨本さん。手を休めて差し入れのたい焼きを頬張る2人　❷後日晴れた日に頸中支所作業現場を再訪した際、眼下に見られた棚田の風景　❸JR越後線刈羽駅と荒浜駅間での支障木伐採作業。電車の通行が最優先のため見張りを付けることが義務　❹雨のため近くの東屋で梨本さんにインタビュー　❺頸中事務所で参事の西條さんに組合の現状を聞く

糸魚川市　H23.12.13 取材

ぬながわ森林組合

小雨模様の朝。6時過ぎに新潟を出発し9時前にぬながわ森林組合事務所に到着しました。取材に大変協力的だった総務部長の岡田さん。現場を4ヵ所もご案内いただきました。森林技術員のうち通年雇用が8人。さらにそのうち4人が20代で、みんななかなかの男前。無口なところもいい。山の仕事が男の顔を作っているのかは定かでないけれど、とにかく精悍でした。午後からは日が射してきて、今回の取材で初めてとなる植林の現場を見ることもできました。



❶ブナの植樹現場を取材。奥に見えるのは日本海　❷大矢組合長にインタビュー　❸作業道を作る木島さん。しっかり根の張ったスギの切株を掘り起こすのは重要な作業　❹森林技術員のモデルとして恩田さんに全身写真をリクエスト　❺糸魚川市の美山公園の支障木整備をしていた吉野さんにインタビュー　❻竹林の奥にあるスギ林で作業道を作っていた渡辺さん。重機の作業が好きだとか

魚沼市　H23.11.18 取材

魚沼市森林組合

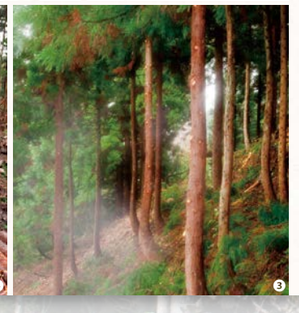
取材日が晴れるのは何ともうれしいです。越後須原駅から車で5分ほどの「魚沼市森林組合」。管理課主任の高橋さんに案内いただいて30分ほど車を走らせて山林へ入りました。杉の間伐作業を行なっていた2名の方にお話を聞きましたが、印象的だったのは道具の取り扱いについて。チェーンソーの刃を各々のやり方でヤスリをかけておく「目立て」のことなど、職人ならではの話が聞けました。事務所は食品加工場も兼ねていて、白衣を着たスタッフさんも十数名いらっしゃいました。

❶杉林に優しく漏れる太陽の光。静かな森の中でチェーンソーの音だけが響く　❷井川さんと坂西さんにインタビュー。チェーンソーの目立てを実際に見せてくれた　❸組合事務所からさらに山あいとなる福山地区にある炭焼き小屋　❹前日に窯から出した炭を冷まし拾い出す　❺現場管理の高橋さんに取材　❻平井組合長から雪が多い地域の現状と問題点について説明を受けた

南魚沼市　H23.11.11 取材

南魚沼森林組合

この日の取材も雨でしたが、今回は現場が山の奥の方ということで、雨の中での山登りを初体験。道なき山を登る中、ぬかるみに足を取られ、思わず目の前の木の枝をつかんだら枝が抜けて尻もち…なんてのは序の口。なかなか現場に辿りつけない中、雨と涙で目の前の景色がぼやけていくのでした。そんな山奥の現場、しかも傾斜地で働く皆さんは本当にスゴイ。改めて林業の厳しさを身を持って体験しました。ホント、この日は取材時間より山登り時間の方が長かったかも…。



❶のっけから急な傾斜に立ちすくむ　❷下を見て、「無事に下界に帰れるんだろうか」と不安に　❸枝打ちされて美しく整えられた山。雨に濡れていっそう幻想的な雰囲気に　❹こちらは森の中に作業路を作る現場。ダイナミックな重機の動きを遠くから見る私達　❺林業を始めて1年目の高橋さんにインタビュー。前向きな言葉に思わずこちらも笑顔に　❻雨で足場も悪い中、皆さんこんな傾斜地で作業しているのです!

十日町市　H23.11.21 取材

株式会社村山土建

新潟市を出発した時点では雨。しかし十日町市内でみぞれに変わり、現場に到着した時点で、めでたく(!?) 今年初の雪となりました。取材チームはここまで雨や崖の現場を繰り返してきたので、ひるまずにドンドン山に入っていきます。斜面の歩き方もかかとに力を入れ、ガツガツ踏み入ります。こんな気持ちになれたのも、朝早くから夕方までこのような厳しい場所で未来のために黙々と仕事をされている皆さんを見てきたからこそ。現場はペレットなどになる細い木を伐採していました。

❶雪の中、木の根や枝を踏みながら斜面を上る。作業現場はもっと奥だ　❷入社3年目の小杉さんにインタビュー。ICレコーダーの手がかじかむ～　❸山から戻り森林環境課の事務所で話を聞く。壁は自然味にあふれた無垢の木を採用　❹冬場に大活躍する除雪車群。同社の心強いラインナップ　❺左から齋木課長、村山社長、金井常務。村山社長からは若手育成と林業に対する熱いお気持ちを伺えた

山仕事コラム

資格や講習にはどんなものがあるの？

林業といえばチェーンソーがイメージされる方が多いと思いますが、その他にも、本誌で紹介されているように様々な機械を駆使して、作業が行われています。

特に、間伐した材を搬出する搬出間伐は、近年最も重要な作業となっており、新潟県でも推進に力を入れています。搬出間伐では、伐採の他、材を集めてくる「集材」、山土場まで材を運ぶ「運材」、集めた材を積み上げる「集積」、集積した材をトラックやトレーラーへ積み込む「積込」など多岐にわたります。今後、林業はますます機械化の方向へ進んでいきます。森林技術員は、それぞれの作業シーンで使われる機械の運転資格が必要となります。そのための資格講習や安全講習などが数多く開かれています。

また、搬出間伐を行うためには、各種機械が森林内に入れるよう作業道の開設が必要となる場合もあり、これにも様々な技術を必要としています。

林業従事者に必要となる主な講習

★はグリーンエキスパート研修で受講できる講習です。

＜特別教育＞ ※労働安全衛生法第59条第3項で定めるもの。

- ★機械集材装置の運転業務（原木等を空中において運搬する場合）
- ★伐木等の業務に係る特別教育（チェーンソー大径木）
- ● 伐木等の業務に係る特別教育（チェーンソー大径木以外）
- ● 巻上げ機の運転業務
- ● 玉掛けの業務（吊り上げ荷重1トン未満）
- ★伐木等機械の運転の業務
- ★走行集材機械の運転の業務
- ★簡易架線集材装置等の運転の業務

＜技能講習＞ ※労働安全衛生法第76条第1項で定めるもの。別表第18。

- ★地山の掘削及び土止め支保工作業主任者技能講習
- ★はい作業主任者技能講習　★小型移動式クレーン運転技能講習
- ● フォークリフト運転技能講習
- ★車輌系建設機械（整地・運搬・積込み用及び掘削用）運転技能講習
- ★不整地運搬車運転技能講習　★玉掛け技能講習

＜安全衛生教育＞

- ● 林内作業車を使用する集材作業従事者　● 刈払機取扱作業者

＜免許＞ ※林業架線作業主任者免許規程。

- ● 林業架線作業主任者免許

平成23年度『グリーンエキスパート研修』参加者の声

林業経験が浅い方などで特に資格がなく、安全講習や技能講習を受けたことがない方でも、就業後に各種資格等の取得支援を行っていますので、心配ありません。

新潟県と農林公社で行っているグリーンエキスパート研修では、右ページにある各種資格の講習を年間を通して受講できるようにパッケージされています。平成23年度は、5月から12月にかけて全13回の講習が開かれ、13名のグリーンエキスパートが誕生しました。

県内各地から集まった、平成23年度の技術員の声をご紹介します。

平成23年度のグリーンエキスパート研修生13名。右は講師の農林公社・福田さん

光瀬 史倫さん 37歳
くびき野森林組合　林業経験9年

研修に申し込んだ人が全員受講できる訳ではなく、人選されての13名ですからね。気を引き締めて臨みました。これからは、この資格を生かして仕事に取り組みたいと思います。このような研修は、他の組合、会社の人とも交流を図れるのでありがたいです。特に森林研究所での宿泊研修は、みんなと大いに親睦を深めることができ、講習の受講以外にもいろんな収穫がありました。

山田 裕樹さん 22歳
株式会社 村山土建　林業経験4年

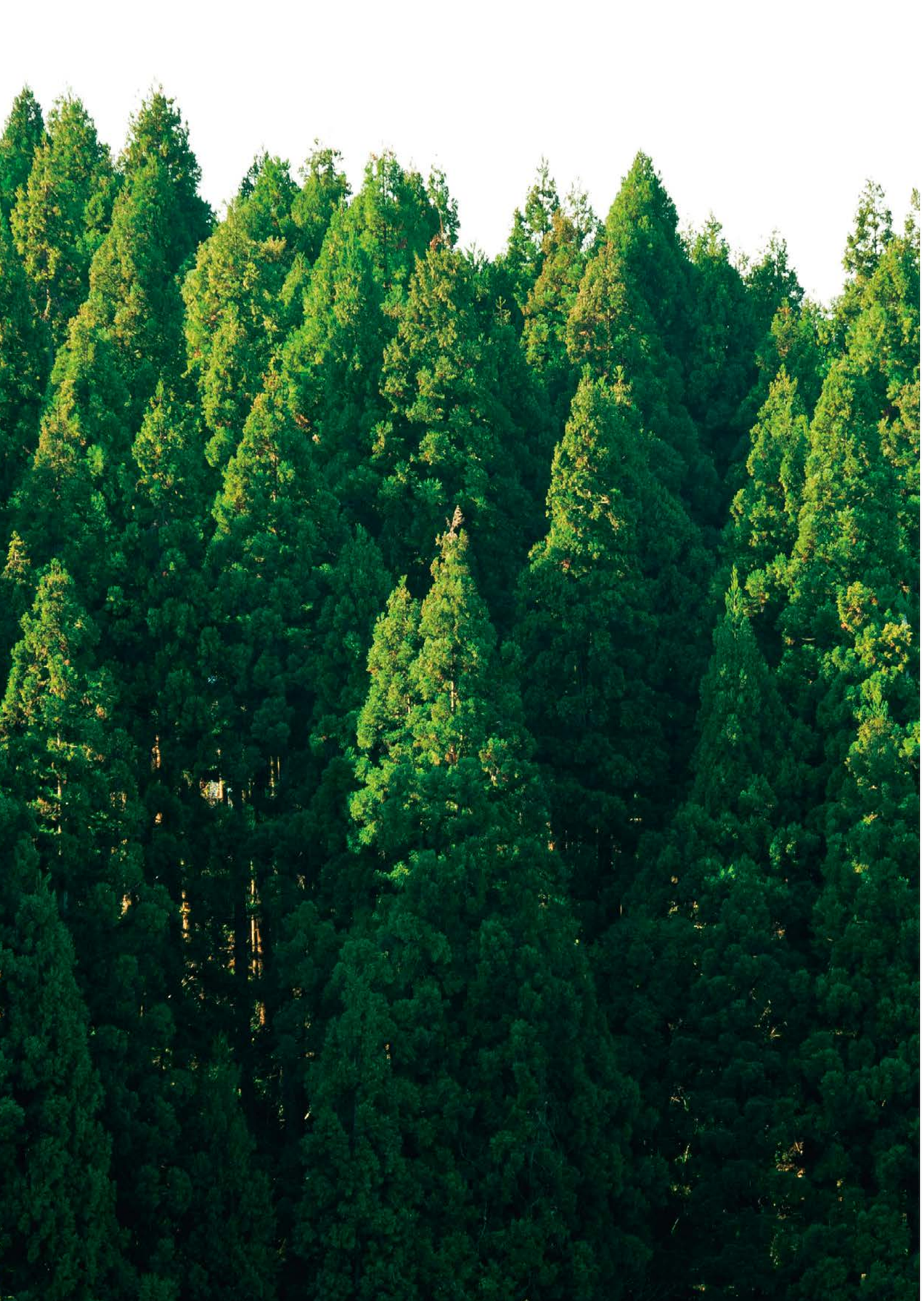
5月から12月までの期間、十日町市から新潟市に通うのは遠くて大変でしたが、楽しく受講させていただきました。特に森林研究所での「ワイヤー編み」の講習が印象に残っています。他の受講生とも仲良くできて良かったです。わが社では、入社3～4年になると受講させてくれるので、ありがたいです。これからも取得した資格を現場で生かしていきたいです。

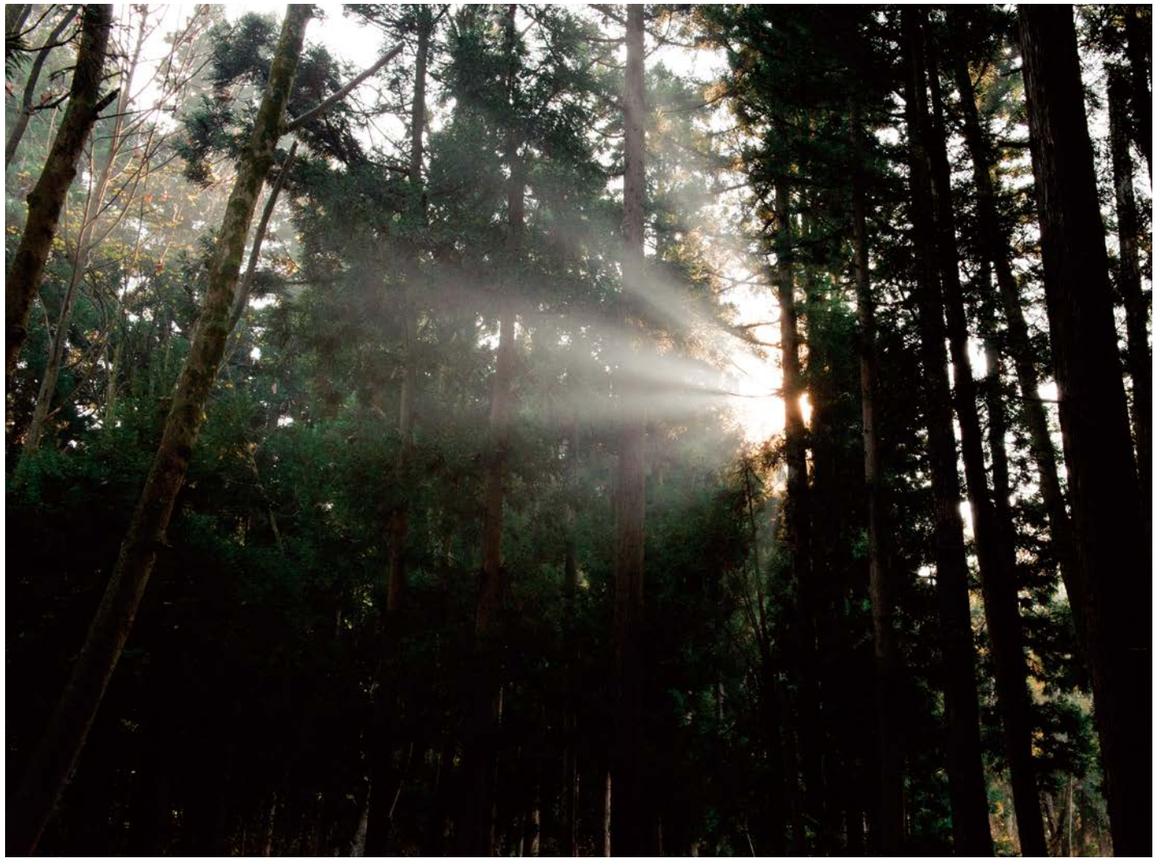
今井 康則さん 41歳
中越よつば森林組合　林業経験5年

なんとか寝ることもなく（?!）真面目に講習を受けて無事に終了することができました。全員初対面でしたので、最初は堅苦しかったけど、8ヵ月もこうやって一緒に受講していたらみんな仲良くなりますよね。資格を取ってグリーンエキスパートにはなりましたけど、実際に現場で機械を動かすのはまだまだ初心者。これから覚えて行くことの方が多いです。

熊倉 広大さん 22歳
ゆきぐに森林組合　林業経験4年

研修は終了となりますが、これから取りたい資格はまだまだありますし、勉強も続けていきたいです。林業の現場では一層機械化が進んでいくでしょうから。13名と受講できたことも良かったです。同じ林業の仕事をしていて他の組合、会社はどんな特徴があるのかなど話を聞けるので、今回だけで終わることなく今後も交流を続けて行きたいと思っています。





Niigata Forestry Magazine にいがた山しごと情報誌

にいがた山しごと情報誌

Niigata Forestry Magazine

2012年3月30日　発行
2014年5月29日　第2刷 発行

発行・監修／新潟県 農林水産部 林政課
〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1　☎025-285-5511(代)
公益社団法人 新潟県農林公社「新潟県林業労働力確保支援センター」
〒950-0965 新潟市中央区新光町15-2 公社総合ビル5階　☎025-285-7711

取材・編集／株式会社ジョイフルタウン
〒951-8544 新潟市中央区白山浦1丁目613　☎025-233-4501
Writer : 桑原知子、渡部吉則
Photograph : 中沢真二
Design : 野股正成、藤間絵美
Coordinator : 笹川清彦
Accountant : 山田節子
Producer : 棚橋和博

印　　刷／株式会社 第一印刷所
※本冊子は平成23年度「林業の魅力アップ情報発信事業」で制作されました。

●本書出版にあたり、取材等を通じて県内各認定事業体様より多大なるご協力をいただきました。
この場を借りて改めて御礼申し上げます。

【本書の一部あるいは全部について、無断で複写、複製、転載することを禁じます】

【にいがた山じだい情報誌 Niigata Forestry Magazine】 平成24年3月刊

新潟県
認定事業体一覧

平成26年4月1日現在

■認定事業体とは……

林業に従事する中で、雇用管理の改善と事業の合理化などの「改善計画」を作成し、新潟県知事の認定を受けた事業体のことです。

【森林組合】

関川村森林組合	岩船郡関川村大字上関1021番地3	0254-64-1249
村上市森林組合	村上市府屋121番地2	0254-77-3121
いわふね森林組合	村上市羽黒町2-38	0254-52-1593
東蒲原郡森林組合	東蒲原郡阿賀町両郷乙515番地	0254-95-2016
さくら森林組合	新発田市中倉48番地2	0254-29-0600
中蒲みどり森林組合	五泉市村松工業団地2丁目1566番地2	0250-58-7824
南蒲原森林組合	加茂市大字下高柳字出戸1番地1	0256-53-0080
中越よつば森林組合	長岡市雲出町字前田4421	0258-21-4525
柏崎地域森林組合	柏崎市三和町9番22号	0257-22-6212
魚沼市森林組合	魚沼市細野208番地1	025-797-2142
湯之谷地域森林組合	魚沼市湯之谷芋川568番地	025-792-2562
南魚沼森林組合	南魚沼市舞子1819番地	025-783-3349
十日町地域森林組合	十日町市大黒沢1789番地1	025-758-3115
津南町森林組合	中魚沼郡津南町大字中深見乙2176番地	025-765-2510
ゆきぐに森林組合	上越市大島区棚岡1569番地1	025-594-2041
くびき野森林組合	上越市新光町1丁目11-19	025-522-1920
	※2014年6月～［新住所・TEL］	
	上越市大字青野2741番地	025-520-6200
頸南森林組合	妙高市大字志2243番地2	0255-72-3379
ぬながわ森林組合	糸魚川市南押上2丁目13番6号	025-552-1533
両津東部森林組合	佐渡市下久知572番地13	0259-27-7156
新穂森林組合	佐渡市新穂瓜生屋666番地2	0259-22-2027
佐渡森林組合	佐渡市千種247番地1	0259-63-4164
南佐渡森林組合	佐渡市羽茂本郷1921-1	0259-88-2017

【その他認定事業体】

株式会社 見晴屋林業	南魚沼郡湯沢町大字三国1102番地1	025-789-3493
株式会社 和信建設	妙高市大字杉野沢1675-1	0255-86-6245
株式会社 マルユー	加茂市幸町1丁目2番22号	0250-58-8688
有限会社 中惣林業	東蒲原郡阿賀町綱木2029番地	0254-99-3446
高根生産森林組合	村上市高根804番地1	0254-73-0265
有限会社 マルワイ	東蒲原郡阿賀町日野川乙1889番地	0254-95-2264
有限会社 阿部林業工務店	村上市松沢143	0254-66-6440
有限会社 丸実	村上市桃川1085-1	0254-66-5628
有限会社 山作	村上市山屋1715番地2	0254-66-7345
有限会社 馬場工務店	東蒲原郡阿賀町細越534	0254-99-3592
株式会社 牛木組	上越市名立区名立大町1630番地1	025-537-2316
岩佐木材有限会社	村上市府屋197番地11	0254-77-2041
株式会社 村山土建	十日町市山本71番地1	025-752-3721
若月建設株式会社	新発田市小戸1305番地	0254-31-4111
カネか渡辺建材株式会社	村上市今宿45番4	0254-66-5328
株式会社 戸田組	魚沼市葎沢204-8	025-792-0417
新潟県森林組合連合会	新潟市西区曽和521-3	025-261-7111

★新潟県の林業に興味を持った方は

公益社団法人 新潟県農林公社「新潟県林業労働力確保支援センター」のHPをチェック!!

http://www.niigata-rinrou.com/　新潟　林業　センター　検索

※公益社団法人 新潟県農林公社「新潟県林業労働力確保支援センター」　〒950-0965 新潟市中央区新光町15-2 公社総合ビル5階　☎025-285-7711

発行・監修／新潟県 農林水産部 林政課　〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1　025-285-5511（代）
公益社団法人 新潟県農林公社「新潟県林業労働力確保支援センター」〒950-0965 新潟市中央区新光町15-2 公社総合ビル5階　025-285-7711